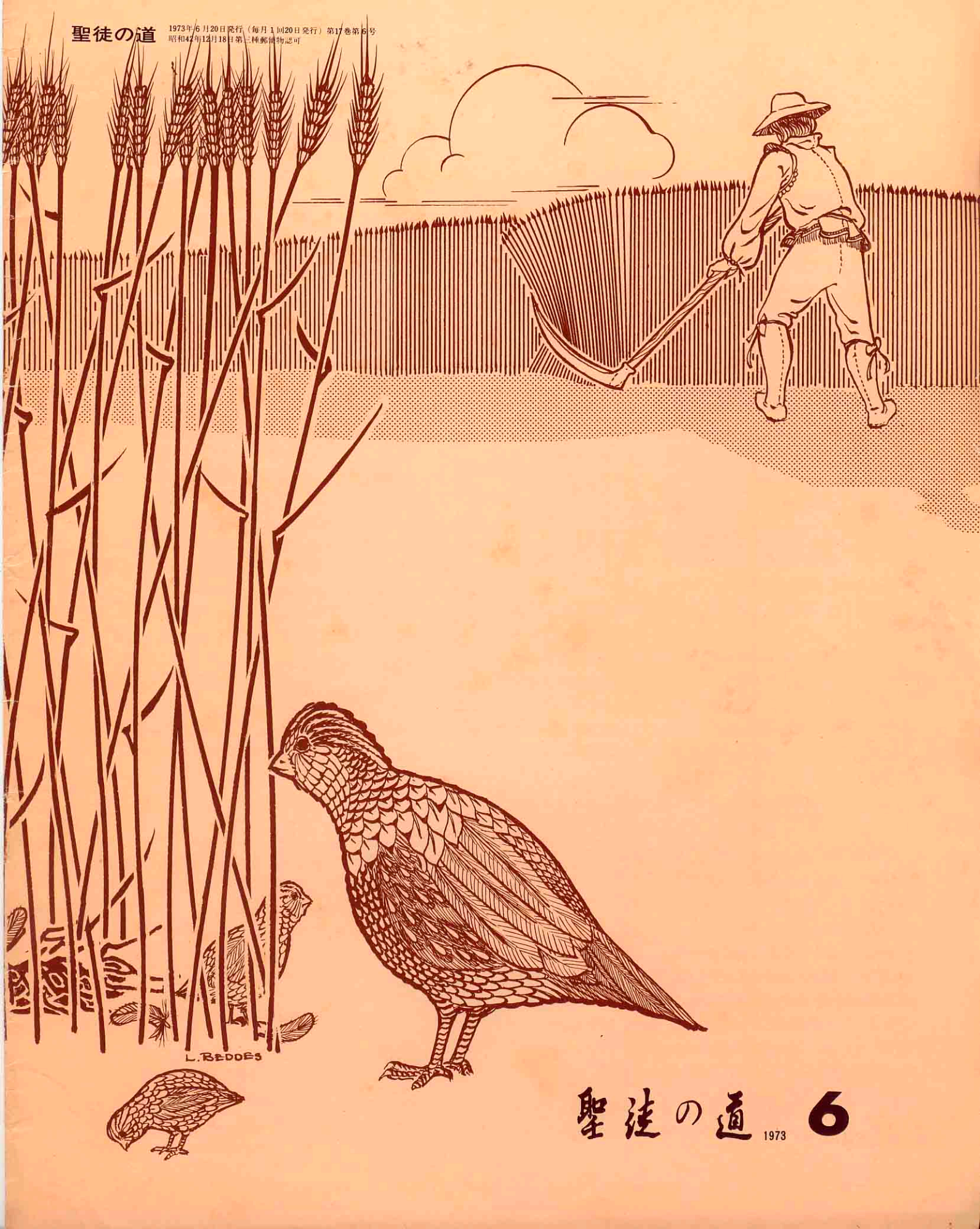






心の糧

大管長

ハロルド・B・リー

あらゆる国々に住む教会員たちに申し上げたい。それぞれの住む所にあつて、イギリスの聖徒たちが「神の御業はここにあり。心を尽くし働かん。み神が共にましますば、いかで恐ることありや。われら生きるはこの地なり、神に仕えんこの地にて」と歌った様な気持を持っていただきたい。

あらゆる所に住む忠実な聖徒たちに、またすべて心の正直な友人たちに申し上げる。

家族の祈りを持ち、家族の結びつきを強め、家庭を愛で満たしなさい。

神権の守護者である人々よ、「教会員を守護し、彼らと共にありて彼らを強くすべきものとす」（教義と聖約20：53）という神聖な責任をおろそかにしてはならない。

指導者である人々よ、激流のごとくに全地を覆おうとしてゐる邪惡の流れに対抗するために、今日天より与えられたプログラムを全力を尽して遂行しなさい。

あなた方指導者は、他の人々に活動の機会を与えることによって、自分自身の荷を軽くすることができる。それによって、あらゆる人々が利益を受けるであろう。

何よりもまして、権威と権能を持ってイエス・キリストの福音を教え、私たちの主イエス・キリストの神聖な御業を、絶えず証しなさい。

そして、心が正直で、真心から真理を探求している友である皆様に、厳かに証申し上げたい。生ける者、死にし者の救いの鍵を持つ、権能ある僕によって儀式が執行された時、「キリストの贖罪により、すべての人類は、福音のおきてと儀式とを守ることにによりて救われ得る」（信仰箇条第3条）と。

もくじ

偉大な人々	240
大管長 ハロルド・B・リー	
……ゴードン・B・ヒンクレー	241
第一副管長 N・エルドン・タナー	
……ヒュー・B・ブラウン	250
第二副管長 マリオン・G・ロムニー	
……スペンサー・W・キンボール	257
ある小さな喜び	ジョージ・デュラント 264
デボラ	メアリ・L・ラスク 265
小さなお友だちへ	A・セオドア・タトル 267
森のパイロット	リンダ・R・ガンドリー 269
ふたごのピエロはどれかな？	
……ビバリー・ジョンストン	271
紙にんぎょう	ビバリー・ジョンストン 272
ホーム・ティーチャーへの質問	V・C・フレーム 273
福音と動物	ジェラルド・E・ジョーンズ 275
聖典を調べなさい	279
聖典の教える断食とは	ロバート・J・マッシューズ 281
モルモン・ユーモア	284
ローカル・ニュース	285

聖徒の道 6月号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京都港区南麻布5-8-10
配 送 東京ディストリビューション・センター
東京都港区南麻布5-10-25
定 価 年間予約 1,300円 1部 130円

聖徒の道 1973

末日聖徒イエス・キリスト教会

大管長会

ハロルド・B・リー
N・エルドン・タナー
マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会

スペンサー・W・キンボール	ハワード・W・ハンター
エズラ・タフト・ベンソン	ゴードン・B・ヒンクレー
マーク・E・ピーターセン	トーマス・S・モンソン
デルバート・L・ステイプレー	ボイド・K・パッカー
リグラント・リチャーズ	マービン・J・アシュトン
ヒュー・B・ブラウン	ブルース・R・マッコンキー

諮問委員会

J・トーマス・ファイアンズ（内務伝達部長）、ジョン・E・カー（配送・翻訳部長）、ドイル・L・グリーン（教会誌編集主幹）、ダニエル・H・ラドロウ（教育資料担当主幹）

統一誌編集主幹

ラリー・ヒラー

日本語コーディネーター

八木沼修一

ローカル編集

高木まりゑ

ステーキ部本部・伝道本部住所

東京ステーキ部本部	〒107 東京都港区北青山3の6の4 TEL (03-407-2465)
大阪ステーキ部本部	〒560 大阪府豊中市岡町北1の12の3 TEL (068-52-3734)
日本東伝道本部	〒063 札幌市中央区北2条西24の245 TEL (011-611-3697)
日本伝道本部	〒106 東京都港区南麻布5の8の10 TEL (03-442-7438)
日本中央伝道本部	〒657 神戸市灘区篠原本町4の6の28 TEL (078-881-2712-3)
日本西部伝道本部	〒810 福岡市中央区平尾浄水町46 TEL (092-52-6048)

偉大な人々

「偉大」という言葉には数多くの定義がある。たびたび世の人々は、「偉大」の程度を名声、富、権勢、さらには単なる知名度によって測ろうとする。しかし、真の「偉大さ」とは精神に関する事柄であり、その精神によって心を動かされた人々の生涯から最もよく測ることができる。偉人の生涯は高潔、奉仕、神に対する献身、真理のための献身、自己改善そして克己に満ちたものである。偉大な人々は名誉を求めようとはしないが、おのずと名誉が与えられるのである。

今月号の「聖徒の道」では、その大部分を3人の偉大な人々、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長会を構成しているハロルド・B・リー、N・エルドン・タナー、マリオン・G・ロムニーの半生の記録に費やしている。3人の記録を書いた人々自身も教会幹部であり、3人の方々と深い霊的な交わりを持ち続けてきた人々である。

リー大管長、タナー副管長、ロムニー副管長の半生には、興味深い類似点がある。3人が3人とも、その生涯は質素な生活で始まった。それ故彼らは貧困の意味を知っており、家族を養うために精一杯働くことの意味を知っている。彼らは一生懸命働き、主を信頼し、主に仕えてきた人々である。またもうひとつの類似点は、3人とも人々への奉仕のためにその生涯を捧げてきたことである。その結果、ひとりとして名誉を求めはしなかったが、おのずと名誉が与えられたのである。

3人ともが開拓者の血筋をひいているということも、この場合、ある程度大切な事実であろう。末日聖徒となる人々はたぐいまれな、霊的な強さと洞察力を持つ人々である。しかし、勇敢な開拓者の先祖を持ちながら、わき道にそれてしまった会員もいる。真にその相違を生むものは、その人自身にあるのであり、その人が、神の御手によって、喜んで鍛練を受け、導きを受けるか否かにかかっているように思える。

主がまさにこの時代のために育て上げられた3人の偉大な人々の生涯の物語は、読者の共感を得るものと確信している。彼らは神の予言者であり、会員たちにより、神の予言者として支持されている人々なのである。

小さなアイダホの農場から出発して、今日末日聖徒イエス・キリスト教会大管長としてその偉大で神聖な責任を受けるに至ったハロルド・B・リーの人生は、長い長い旅であった。その旅は希望と不安に満ち、苦闘と悲哀に間断なく見舞われ、やっと勝ち得た成功と鍛えに鍛え抜かれた信仰に満ちあふれるばかりのものであった。

大管長 ハロルド・B・リー

— 私が尊敬する人 —

十二使徒評議員会会員

ゴードン・B・ヒンクレー



3歳半のハロルド・B・リー

ハロルド・B・リー大管長の生涯を略述すれば次のようになる。1889年3月28日アイダホ州クリフトンでサミュエル・マリオン・リーとルイザ・エメリン・ビンガム・リーを両親とする6人兄弟の長男として誕生。近所の学校を振り出しにプレストンの近くのオナйда・アカデミーで学び、続いてアイダホ州アルビオンのアルビオン州立師範学校に学ぶ。その後、ユタ大学で学ぶ。17歳で教職につき、18歳にして校長となる。その後ユタ州ソルトレーク郡でふたつの学校の校長を兼務。1923年11月14日ファーン・ルシンダ・タナーと結婚。1962年9月24日妻と死別。1963年6月17日フリーダ・ジョウン・ジェンセンと再婚。

1928年から1933年までファウンデーション出版社を経営。1933年から1937年までソルトレーク市理事を務める。この時教会福祉計画部長となる。1941年4月6日十二使徒評議員会の会員に指名され、1970年1月23日十二使徒評議員会会長兼第一副管長に指名される。さらに1972年7月7日大管長に聖任され、その職に任命された。

これがリー大管長の人生の流れである。しかし、この生涯はもっと詳しく語る価値があるものである。

町の大きさから言えば、クリフトンは、幹線道路からはずれた小さな町である。しかし年月がたつにつれ、この町は、第11代大管長の出生の地としてその名が知られることになるであろう。

リー大管長の父、サミュエル・マリオン・リーは、南ネバダのパナカという田舎町からクリフトンにやって来たのだった。サミュエルは、生まれて28日目に、母（リー大管長の祖母）と死別した。未熟児で生まれたサミュエルは、指輪が大きすぎて、腕輪になってしまう程小さく、哺乳びんの代わりに、目薬のスポイトでミルクを飲ませてもらう程であった。母親の姉がクリフトンに住んでいたため、18歳の時、引越してその家族と共に生活を始めることになった。

サミュエルはそこで、黒髪の黒い目をしたルイザ・ビンガムに会った。ふたりはローガン神殿で結婚した。彼らと、その後生まれた6人の子供たちの住んだ家は、町から5キロ程北に入ったほこりっぽい道ぞいにあった。その道は、夏はほこり道、冬は雪道、春と秋はぬかるみになるという道であった。一番近い病院でも何キロも離れており、また医者にしても同様であった。そこでヘンダーソン家のスーザンおばさんが家政婦として働くことになった。

田舎の子供たちに混じって、はだしで、作業着を着たハロルドが育ったのは、こんな所であった。ダドリー池では水泳ができたが、日曜日は例外であった。父は副監督、母はYW M I Aの役員で、日曜日は聖日であったのである。ハロルド・B・リーがバプテスマを受けた所は、バイビー農場にある同じような池であった。

当時は、経済状態がすこぶる悪かった。そのため、作物は豊富にとれても、ほとんど金にならなかった。父は、刈り入



れや井戸掘りやかんがい用水の建設を請け負って、家族の収入の増加をはかった。しかし、リー家の子供たちは、自分たちが貧乏であることを知らなかった。家庭と教会が、娯楽の機会を与えてくれたからである。リー家の宝は、ピアノであった。音楽教育に造詣の深いスコットランド出身の女性が、ピアノの弾き方を教えてくれた。

特にハロルドは、上達が早かった。興味深いことは、この当時培われた音楽に対する愛が、後に教会音楽委員会の議長の職についた時、遺憾なく発揮されたということである。

子供たちは、母親の御す馬車に乗って、毎日、学校へ3キロあまりの道を往復した。その馬車には、冬吹きつける北風を防ぐものもなく、雪解けの季節には道のぬかるみで大変であった。だが、これがクリフトンの生活であった。リー大管長が回想しているように、「お金で買えないものなら何でもありました」という生活であった。

近所の学校を卒業すると、男の子たちは家を出て、24キロほど離れたプレストンにある、教会経営のオナイダ中学校に入学した。この時、ハロルドは13歳であったが、ここで初めてエズラ・タフト・ベンソンと会った。その後、アイダホ州の反対側にあるアルビオン州立師範学校に入学した。この学校でハロルド・B・リーは、17歳で教員免許状を取得した。それは彼にとっても、家族にとっても、喜ばしい日であった。地方教育委員会は、クリフトンからそれほど遠くない、デイトンとウエストンの間にあるシルバースター校という、1学級しかない小さな学校の教師にハロルドを任命した。

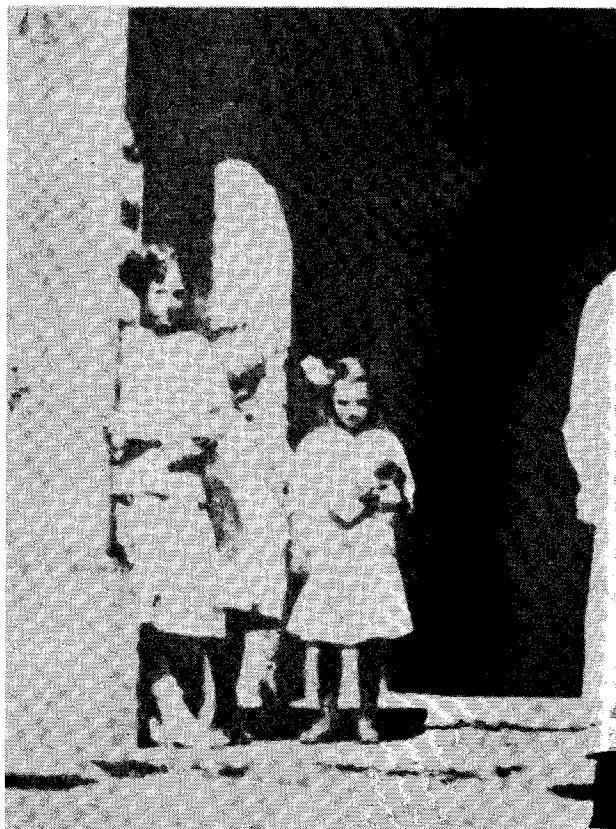
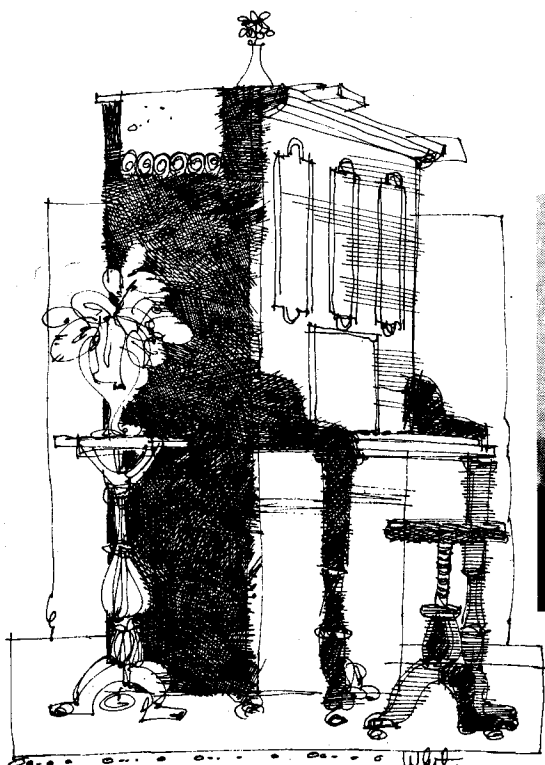
彼は、週末には決まって、16キロの道を馬に乗って帰宅した。

この期間は、もっと大きな責任を伴ったさらに偉大な機会に備える、いわば準備期間であった。翌年、委員会は、彼を4学級あるオックスフォード校の校長に指名した。18歳の青年にとって、これは偉大な機会であった。彼は64キロの道のりを、雨が降ろうか風が吹こうか、天気の良いし悪しにかかわらず、毎日馬に乗って通勤した。培われた音楽の才能と、バスケットボールに秀でた彼は、暇な時間を地域活動のために費やした。この当時、父は監督であり、ハロルドが、後によく知られるようになった教会福祉計画の一部をかいま見たのはこの頃であった。当時も現在と同様、生活困窮者の面倒を見る責任は監督にあった。リー監督は自分で倉庫を持っていた、必需品は皆、彼の食料貯蔵庫から出していた。夜になると、家族の者は、父が小麦の袋を持って出かけるのを見た。だが、困窮者の自尊心が充分考慮され、援助を必要としている人々の名前が世間話のたねになって彼らが困惑することがないように、厳密に注意が払われたので、家族の者は父親がどこに出かけて行くのか知らなかった。

また、当時も現在同様、伝道に出かけようとする青少年を推薦するのは、監督の特権であり、責任であった。4年間教職にあったハロルドは、既に21歳になっていた。そして、ヒーバー・J・グラント大管長から、西部諸州伝道部で伝道する召しを受けたのである。

教会伝道部の鍵のかかった書庫の中には、大管長会あてのリー長老に関する報告がある。1922年12月30日の日付けで、ジョン・M・ナイト伝道部長の署名がある。これによると、彼の伝道期間は、1920年11月11日から1922年12月18日までとなっている。様々な質問に次のような答えが記されている。

(下) 5歳のときのリー大管長
(右) アイダホ州オックスフォード校で19歳の校長であった
(次ページ上) 1915年から16年まで在学したオナイダ・ステーク・アカデミーの討論会のパートナー、スパーレル・ハフ(左)と共に





「評価——説教者として——非常に優秀。管理者として——敏腕家。福音の知識は——優秀。精力的であったか——きわめて。思慮分別があり、よい影響を及ぼしたか——然り。備考——リー長老は、1921年8月8日から1922年12月18日までデンバー地域を管理して抜群の功績を残した。非常に優秀な宣教師であった。」

その時、同じ伝道部内にソルトレーク市出身のファン・ルシンダ・タナーという若い姉妹宣教師がいた。彼女は同僚たちから理知的で美しいとの評判を得ていて、聖典の勉強には非凡な才能を示していた。リー長老は伝道から解任されると、クリフトンには、ちょっと帰っただけで、すぐにソルトレーク市へとって帰し、彼が伝道中遠くから敬服していたその女性のところへ行き、プロポーズした。ふたりはリー長老の伝道終了の約11カ月後、ソルトレーク神殿で結婚した。

その結婚で、ヘレンとモーリンというふたりの美しい娘が生まれた。リー家はその附近の若者たちの集会の場となった。

リー姉妹の穏やかな態度と困難な問題に対処する機敏さは、彼女を知る人の賞賛の的であった。ある時、ふたりの高名な人が同僚のひとり批判しているのを聞いて、リー姉妹は「公明正大でありたいと思ったら、親切にすることを忘れてはいけませんわ」と言って、ふたりの批判を黙らせたこともあった。

アーネスト・J・ウィルキンス夫人となったモーリンは、1966年、父が教会の仕事でハワイに行っている間になくなった。ブレント・L・ゴーツ夫人となったヘレンは、長く扶助協会会長の職にあり、今日もこの組織で働いている。そして教師として、自分の若い娘たちに親しく接する機会が与えられている。

リー大管長が18歳になるまでにふたつの学校の校長を務めた素質が、ここで再認識される時がきた。ユタ大学での学業が終わると、まずウィットティア校の、続いてソルトレーク郡のウッドロー・ウィルソン校の校長に指名された。

夏の間は、図書館の仕事もしていたが、1928年、ファウンデーション出版社は、彼を説得して、山岳地方担当部長として招いた。その後1932年、ソルトレーク市理事の死去に伴って、彼は理事に指名された。さらに翌年も再選された。

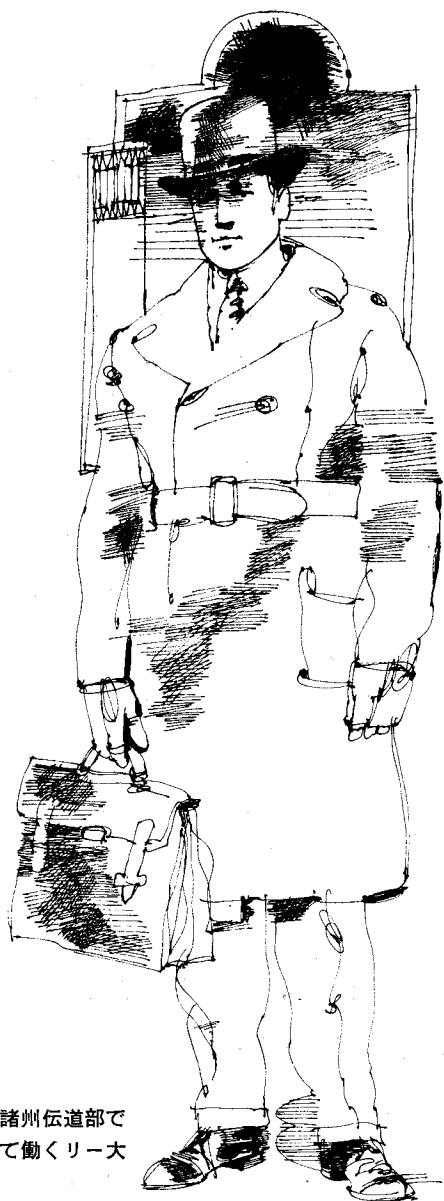
彼は結婚後、パイオニアステーク部内に住んでいたが、ここでは教会の責任が次々に与えられた。そして1929年、副ステーク部長に指名され、その翌年にはステーク部長に召された。その時31歳であった彼は、当時教会で最も若いステーク部長であった。

その頃、アメリカにも全世界にも恐慌が忍び寄っていた。株は暴落し、手形は滞り、銀行は閉鎖された。何百万ドルと



「お金で買えないものなら

何でもありました」



1921年西部諸州伝道部で
宣教師として働くリー大
管長

いう預金が宙に浮いて失われた。失業者の増加は破局を暗示する勢いであった。長年の仕事が無駄になって、自殺する者も出た。貧民救済所には人々がえんえんと列を作った。落胆と悲劇があるのみであった。パイオニアステーク部でも会員の半分以上が失業した。

若いステーク部長にとって、恐ろしいチャレンジがやって来たのだ。彼は、かつて誇り高く、豊かであった人々が、失業のために自分の家族さえ養えなくなる有様を見て、心を痛め、涙を流し、神に祈った。この時、倉庫を建設する考えが靈感によって与えられた。倉庫ができれば、そこへ食料や必需品も集め、そこから貧困者に物資を分け与えることができるのだ。事業計画が実施に移され、この事業は地域社会の改善に寄与しただけでなく、さらに大事なことは、受けたものに対して人々に働く機会を提供したのである。ある古い事

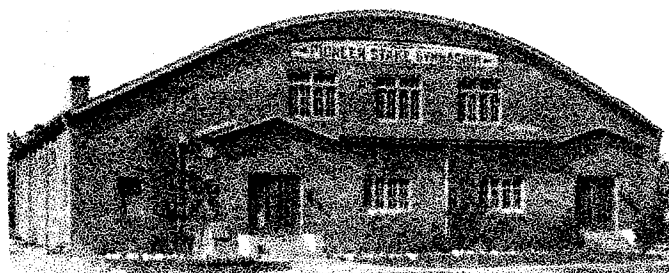
業所の建物が取り壊され、その材料でステーク部体育館を建設した。そして、この体育館は人々に社交とレクリエーションの場を提供することになった。

他のステーク部も同じような計画に着手した。そして1936年4月、当初、ヒーバー・J・グラント大管長が教会保全計画（現在の教会福祉計画）と呼んだ事業に着手するために、これらステーク部は一致協力することになった。

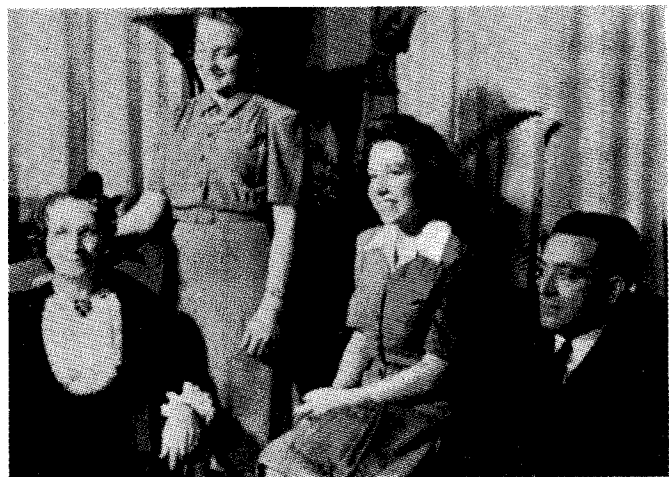
パイオニアステーク部の若き指導者、ハロルド・B・リーは、この絶望と試練の時代にあって、困難の海に船出した新しい船の水先案内人となるべく召しを受けた。問題は山積していた。農業資産を集め、食糧を生産し、またその処理施設や貯蔵施設を造ることは困難をきわめた。さらに悪いことに教会のすることに対して批判的な態度を取る人々がいた。そのような人は、福祉などというものは政府のする仕事であると考えていたのだ。

だが、祈りと説得に努め、汗と涙を流し、そして予言者からの祝福を受けて、彼はシオンのステーク部を東奔西走した。その結果、ようやく計画も軌道に乗り、発展して、隆盛を見るに至った。

今日の福祉計画の広範な成果、すなわち——数々の豊かな農場、処理工場、かん詰め工場、大穀物倉庫、製粉工場、その他アメリカ全土に散らばっている施設——を見ると、当時



リー大管長の指導のもとに1933年に建設されたパイオニアステーク部体育館。1954年この体育館はハロルド・B・リー・ホールと改名される。



1941年のリー家族—(左から)ファーン・リー姉妹、ヘレン（ゴーツ）、モーリン（ウィルキンス）、リー長老

の努力の跡をしのぶことができ、感動を禁じえない。政府の救済計画が、いまだ絶えず攻撃的になっている今日、教会の計画は全世界の人々から変わらぬ賞賛を博している。教会で福祉計画を運営したため、納税者たちは何百万ドルというお金を納めなくてもすんだ。数千という男女が雇用の機会を与えられ、数多くの身体障害者にも自分の必要なものを自分で働いて得る機会が与えられている。この計画の恩恵に浴している人々で、「怠惰ののろいと施し物の悪」影響を受けている人はいない。それらの人々の尊厳と自尊心は固く守られている。直接その計画の恩恵に浴していない数多くの男女も食糧の生産や処理に携わったり、数々の仕事を共同で行なうことによって、人々のため非利己的な奉仕をする喜びが得られることを証している。

この計画の大きな意義と驚異的な結果を証することのできる人は、この計画を成し遂げ、そして善のための力を現実のものにまで引き上げた啓示のみたまを決して疑うことができないだろう。この計画の最初の部長であり、その後長く、教会福祉委員会の議長を務め、靈感あふれる指示を与えたハロルド・B・リー大管長には、賞賛の声を送らなければならない。だがリー大管長は、これをおだやかに否定するだろう。

それは正しいのである。なぜなら、リー大管長は、この榮譽を主に帰したいと望んでいるからである。主は、この僕を鍛えるにあたって、その献心と信頼をよしとされたのである。

興味深いことに、リー大管長を補佐するマリオン・G・ロムニー第二副管長は、この計画の初期の頃、共に辛苦をなめた友であり、またリー大管長のあとを継いで部長となった人である。ふたりはそれより何年も前に、個人的に親しくなっていた。ふたり共、その計画の最初の集会が開かれた頃は、作業着を着て、共に働いたものであった。以来、ふたりは、共に働く経験を積み重ねるうちに、無類の伴となったのであ



- (上) 1938年教会福祉委員会の最初の管理主事として働くリー兄弟。委員会アドバイザーと共に——アルバート・E・ボウエン長老、メルビン・J・バラード長老、ジョン・A・ウィッツォー長老、ヘンリー・D・モイル長老（後ろに立っている）
- (中) 1937年教会福祉委員会——左からメルビン・J・バラード、ロバート・L・ジャッド、ヘンリー・D・モイル、ウィリアム・E・ライバーク、ハロルド・B・リー、セオドア・デブリー、キャンベル・M・ブラウン、ストリングム・A・スティーブンス、マービン・O・アシュトン監督、ケート・バーカー
- (下) 1934年父と息子の活動でヒーバー・J・グラント大管長と共に。この時リー大管長はバイオニアステーク部のステーク部長であった。

る。

3分の1世紀前を振り返ってみると、今日リー大管長の双肩に引き継がれた重責に耐えさせるべく、この僕を鍛練された主の御手を見ることができる。教会の福祉計画の、試練に

満ちた開拓時代にあって、辛苦をなめ信仰を試されたリー長老は、ヒーバー・J・グラント大管長によって使徒職に召され、1941年4月6日十二使徒評議員会の一員として支持された。

この召しの際、ジョン・A・ウィッツォー長老¹は、新しい同僚についてインプルーブメント誌の社説で次のように書いている。「彼は主に全幅の信頼を寄せ、同胞に対して絶えざる愛を持っている。教会と国家に対しては忠誠を尽くし、福音のためには、自分のことも忘れて献身する人である。知性と精力と指導力に恵まれ、神の御言葉とみこころを教える弁舌には天職の才がある。彼が主に助けを求めに行く時、主は、人類の救いを実現させ永遠の御計画を押し進めるため、彼を強力な器となすであろう。……彼のために捧げる人々の祈りの声が主の耳に届く時、彼には、自分がかつて知り得なかった程の強さが与えられるであろう。」（インプルーブメント・エラ² 1941年5月、P. 288）

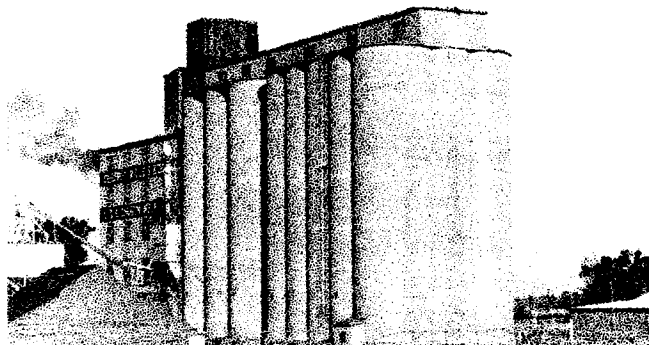
これらの評価は正鵠を射ており、また予言的な言葉でもあった。

彼の過去31年の生涯は、「全世界におけるキリストの御名の」特別な証人として、特別な職である使徒に課せられた偉大なそして神聖な召しを終始一貫、忠実に尽くした歲月であった。

この責任を遂行するにあたって、彼は大管長会の指示の下に、世界各地を旅し、声をあげて、全人類の贖い主の使命を証し、人々の心を動かした。

彼は、しばしば、パウロがコリント人にあてた次の言葉を引用している。「また、もしラッパがはっきりした音を出さないなら、だれが戦鬪の準備をするだろうか。」（Iコリント

14:9）ハロルド・B・リーの言葉には、全くあいまいなところがない。言葉のあやを使うのではなく、確固たる信念に基づいた、確信にあふれる彼の証は、今や20カ国語近くの言葉に翻訳されて、身分の上下なく世界のすみずみにまで述べられている。真理について証を述べる時は、神の僕として、その責任に対し、いさかもたじろぐことはない。彼が証を述べる時、宣教師は心をふるいたたせて、さらに熱心に努めるようになり、教会員は、福音に生きようと新たな決意を抱き、求道者は強く心を刺されるのである。彼は体を使うことを惜しむ人ではなく、健康を損う恐れがあっても過酷なスケジュールをこなしてきている。彼の側近は、彼がある時期何カ月もの間、体の痛みのないことがなかったことを知っている。幸いにも、今ではその状態もなくなり、現在73歳の人には重すぎると思える程の荷を背負っても、かくしゃくとしているのである。だが、数々の病いと闘ってきて、他人の苦しみに対して鋭い感受性を持っている。彼は、聖徒たちを勇気づけ祝福するために世界各地を旅したひとりである。世界の各地



（上）福祉計画の初期における建物、デゼルト工場と大穀物倉庫
（右ページ）1945年ジョージ・アルバート・スミス大管長とリー長老





には、この主の僕が行使した奇跡的な神権の力を、感謝を込めて証する人々が大勢いる。

彼はまた、兵役についている人々の直面する孤独、恐れ、チャレンジに対しても、深い思いやりを持っている。第二次世界大戦、朝鮮動乱、アジアでの戦闘の際、彼は教会の軍人プログラムを指揮した。そして絶えず教会幹部の兄弟たちに

「彼は主に全幅の信頼を寄せ、同胞に対しては絶えざる愛を持っている。教会と国家に対して忠誠を尽くし、福音のためには、自分のことも忘れて献身する人である。知性と精力と指導力に恵まれ、神の御言葉とみこころを教える弁舌には天賦の才がある。彼が主に助けを求めに行く時、主は、人類の救いを実現させ永遠の御計画を押し進めるため、彼を強力な器となすであろう。……彼のために捧げる人々の祈りの声が、主の耳に届く時、彼には、自分がかつて知り得なかった程の強さが与えられるであろう。」

兵役にある人々にも教会の完全なプログラムを及ぼし、それによって彼らもあらゆる祝福と機会を受けるようにすべきだと話している。彼は、兵役にある教会員たちを訪問するため

に海上と陸上を問わず、世界各地を旅行している。1955年、彼は韓国を訪問した。その時はまだ、大きな軍の基地があり彼は軍服に身を包んで、その悲惨な戦闘状態の国に駐留している会員を訪問した。彼に合った人々は、彼の親切と関心をまた人の世界に関与して働く神の強大な力について述べた彼の証を忘れることはないだろう。彼は軍人たちに慰めと平安を与え、悲劇の深い谷間に落ち込もうとしている多くの人々を救った。

彼は遺族にも慰めを与えている。自分自身の経験から、愛する者を失った悲しみを知っているのである。愛する伴侶が生死の境をさまよっているとき、彼はソルトレーク市を遠く離れて、あるステーク部の大会に出席していた。一晚中旅して、彼女のもとへ急いだが、彼が着いたとき、すでに彼女は他界したあとであった。彼のそばにあって、彼女の逝去によって生じた悲しみの時を知っている人々は、リー大管長の味わった悲しみの深さを、幾分なりとも感じただろう。1962年のことであった。1966年に愛する娘のモーリンが死んだ時もリー長老は教会の責任でハワイにいった。この時、モーリンは4人の子供を残して逝った。

これら一連のつらい経験は、耐えがたいものではあったが他の人々の重荷を思いやる感覚を一層養うものとなった。愛する人を失うという同じような経験をした人々にとって、リー長老は、その気持ちをわかってもらえる友であり、また、その幾たびかの試練に耐えた信仰は、人々に強さの源を与える友ともなっている。

1963年、彼はフリーダ・ジョウン・ジェンセンと再婚した。彼女は、夫の生涯にとって、驚く程大きな力となった。高度の教育を受けて洗練された彼女は、どのような立派な人々との交際にも、物おじすることのない女性である。彼女は生まれつき、非常に立派なたしなみを備えた女性でもある。教育者としての訓練も受け、教べんを執ったり、様々な行政上の責任を受けたりして、ソルトレーク郡のジョーダン校区で小学校教育の指導主事として活躍したこともあった。彼女はまた、初等協会の中央管理会の役員としても働いたことがある。彼女の営む家庭は、夫にとって安らぎの場であり、またそこを訪れる機会に浴した人々にとっては、楽しい歓待の場でもある。

デビッド・O・マッケイ大管長は、リー長老が教会の全プログラムに通じ、またそれまでの業績で証明済みの行政手腕を買って、彼を相互調整委員会の議長に指名し、教会の全教科課程を統合させた。これによって、教会の教育組織と教育施設について完全な分析がなされ、これまで何年間も使用されてきた各クラスのテキスト内容の徹底的な再検討が試みられたのである。彼の指示のもとに多大の努力が払われたことによって、教会活動と教義のあらゆる面の知識を伝え、各会員の霊性を高めるために、相互調整教科課程がつくられることとなった。彼の傑出した指導力は、この責任において遺憾

なく発揮された。その手腕は手堅く、その目標は、はっきりと見定められていた。教会全体が、彼の奉仕によって多大の恩恵を受けている。

マッケイ大管長が逝去し、ジョセフ・フィールディング・スミスが大管長の職を継承したことに伴い、リー長老は、十二使徒評議員会の会長となり、さらにスミス大管長によって、第一副管長に選ばれた。このため、彼が以前から携わっていた活動のうちいくつかの議長職を退かねばならなくなったが所期の目的は、彼の全般的な指導を受けて、そのまま引き継がれている。教会の教師たちをさらに訓練するために、様々なプログラムが設けられた。監督の訓練プログラムも実行に移され、全世界の宣教師プログラムも強化された。

彼が、これら一連の活動やその他数多くの活動を指導していた時、彼の行政者としての秀でた手腕は、他の分野でも認められた。彼はアメリカ赤十字の中央管理会の一員に指名されている。また、全アメリカ適正生命保険協会、ユニオン・パシフィック鉄道、その他多くの会社から理事として就任して欲しいという要請を受けている。彼は、これらの職にあって、政界、実業界、教育界、その他の分野で政府の要人と交わる機会を持った。彼の親友の中には、上記の人々も入っている。これらの人々は、リー大管長の判断を尊重し、当時の交遊を懐しく感じている。ユタ州にある3つの主要大学——ブリガム・ヤング大学、ユタ大学、ユタ州立大学——は皆、彼に名誉学位を贈っている。国内各地の教育家たちは、彼を



(上) 家庭でくつろぐリー大管長とフリーダ・ジョウン・リー姉妹
(右上) ジョセフ・フィールディング・スミス大管長とリー副管長

理解ある友のひとりに数えている。17歳で公立学校の教職についた人物が、そのような思慮を持ち、評価を得ていたとしても不思議はないであろう。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長が、1972年7月2日の夕方、静かに息を引きとったとき、十二使徒評議員会のすべての会員の心には、だれがスミス大管長の後を継いで大管長になるかという疑惑の気持は、いささかもなかった。7月2日金曜日の朝、十二使徒評議員会の会員は、ソルトレーク神殿の神聖な一室に集った。その静かな聖なる場所で、皆、心を開いてみたまのささやきを求めた。い合わせたすべての人々の心は、そのささやきの答えに、ひとつとなった。主により選ばれ、幼年時代から回復された福音の原則の中で育ち、31年間使徒の職にあって練られ、鍛えられたハロルド・ビンガム・リーが、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長、予言者、聖見者にして啓示を受ける者として指名された。そこにいた人々の手が皆、彼の頭上に置かれ、主に油注がれた者として、この高く比類ない召しに按手聖任されたのである。

世界中の聖徒の信仰と祈りの支持を受けて、リー大管長は今、地上における神の王国の管理大祭司の職にある。

注) 1, ジョン・A・ウイツォー (1872—1952) ノルウェーに生まれる。1921年3月17日使徒職に聖任される。



第一副管長

N・エルドン・タナー

— 清廉潔白の士 —

十二使徒評議員会会員

ヒュー・B・ブラウン

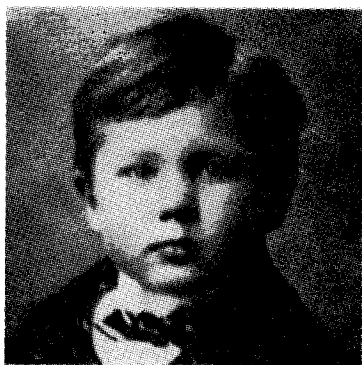
タナー副管長は、教会内外において大きな尊敬と賞賛を勝ち得ている。非常に控えめな出立をして以来その着実な出世に見られるように、今日彼が教会の指導者としての地位を築き上げるために、絶えず主の訓練を受けていたように思える。彼のするひとつひとつのことには、将来偉大な人物となる芽生えが見られた。

エルドンは、1898年5月9日、ナサン・ウィリアム・タナーとサラ・エドナ・ブラウン・タナーの長子として生まれた。ふたりは幌馬車に乗ってカナダの農場へやって来たユタの人であった。彼らの最初の家は、いわゆる、防空ごう的なもので、丘の中腹をけずって、丸太で補強した一部屋の小屋であった。この小屋はカードストーンから9キロ程南にあった。しかし、エルドンが生まれたのはそこではなかった。彼の母は、実母から初子の出産に立ち合ってもらうために、ソルトレーク市へ帰っていたのである。

その時、私は14歳であった。医者のエリス・シップ先生に来てもらうことになっていたが、到着が遅れてしまっ

た。当時の交通機関といえば、馬か馬車であった。そのため私の母は、私にこの世に生命を送り出すために手伝ってもらうことになるかもしれないから手を消毒するようと言った。だが、幸いなことに、シップ先生は、出産には間に合った。私がエルドンについて最初に覚えているのは、必要があれば手伝おうとして待っていた時に聞いたエルドンのうぶ声である。直観的に彼が約束の子であるとわかった私は、その時以来、彼とは固いきずなで結ばれている。

エルドンの少年時代は幸福ではあっ



4歳の頃カードストーンで

たが、数多くの責任があった。8人兄弟の最年長であったために、弟や妹たちに正しい模範を示すように期待された。しかし彼は、自分がいつも誘惑と闘っている普通の子供であったと言っている。ある時、監督であった彼の父が数時間外出することになった。その時父は、留守中の仕事を子供たちに説明し、必ずやっておくよう命じて出かけた。

父親が出かけたあと、子供たちは子牛に乗って近くの家畜場まで行って遊ぶことに決めた。とても楽しくて、時のたつのも忘れてしまった。やがて父親が帰って来た。しかし、父親は彼らをしかったり、いわゆる「愛のむち」をくれたりせずに、エルドンを傍らに呼ぶと、じっとエルドンの目を見つめて言った。「エルドン。お前には任せとおけると思っていたよ。」

これだけの罰でエルドンには十分だった。そしてその時、彼は、自分の父に二度とこのような懲らしめの言葉を言わせるようなことはすまいと決心したのだった。

彼は幼いうちに、独立独行の美德と

一見難しいとも思える仕事をやり通す決断力とを学んだ。少年の時には、彼は4頭だての馬車を駆って、しばしば朝の吹雪の中を、穀物を積んで倉庫まで行ったものである。彼は農場で一生懸命働く価値を知ったため、全生涯を通じて、手もとにある仕事に専念するのを習慣にしてきた。

彼が15歳の頃に起きたひとつの事件は、彼の性格の一端を物語っている。家畜の番をしていたときに、彼は馬から落ちてしまった。立ち上がったとき彼は左手の指が3本間節の所で骨折しているのがわかった。3本の指とも手の甲の方にそり返っていて、中指の骨は傷口からとび出していた。彼は異常な程の勇気を振りしぼって、指を握りしめてまっすぐにし、再び馬に乗って医者の所へ行った。医者はこの少年の気力に驚いてしまった。骨は皆、正常な位置にあった。そこで医者はただ傷口を縫いさえすればよかった。

青年時代も、彼は年齢以上の責任を受けた。ある時、家族全員が天然痘にかかり、看護をする者が彼だけになってしまった。3日2晩、彼は一睡もせずに、病人の看護にあたった。隣人た

ちは、そのひどい病気を恐れて、だれひとり来ようとしなかった。

収穫や他の農作業のために、彼の学業がしばしば中断されたので、両親は彼に正規の教育を受けさせることにした。彼はアトナという小さな町で9学年の課程を終え、その後レイモンドの夜学に通い、そこで10学年と11学年の課程を終了した。その後、肉屋と食料品店で働いて自分の生活費を稼ぎながら、カルガリー尋常師範学校で6カ月の課程をとった。

1919年に、2カ所から教員として採用するとの通知が来た。ひとつはヒルスプリングにあり、家族の住いの近くにあった。もうひとつはやや離れてはいたが、最初の所より給料もよく、気持も動かされた。しかし、家族と教会を愛する彼の気持の方が優先し、その結果ヒルスプリングにある3学級の学校の校長兼教師の仕事の方を選ぶことにした。

彼の夢と祈りが答えられて、サラ・イザベル・メリルという名前の美しい目をした教師と出会い、恋をしたのはこのヒルスプリングでのことであった。ふたりは1919年12月20日に結婚し、そ

の後、1923年にアルバータ神殿が献堂された時、そこで永遠に結び固められた。

教職についた最初の年に、彼は7年生と8年生を教えた。ヒルスプリングには高等学校がなかったので、最初の6人の8年生が皆11年生になるまで、毎年彼は1年ずつ課程を上げて教え続けた。毎年(ただひとりの例外はあったが)、彼の生徒は全員、厳しい政府の進級試験に合格した。

1922年の秋、エルドンと彼の教えた6人の卒業生は、ヒルスプリングを出て、一緒にカードストンで12年生になった。このため、彼らは、昔の先生と一緒に高等学校を卒業するという珍しい経験をしたのである。翌年、エルドンは再びヒルスプリングに戻って、教職に就いた。

この頃は恐慌の時代であり、教師の給料はひどく悪かった。そのため、タナー家では、その乏しい収入を補う必要があった。そこで彼らは、ただひとつの財産である極上の新しいフォードセダンを売ってしまった。そのお金を頭金にして、彼らは小さな雑貨店を購入し、学校で教える片手間に経営した。



当時の雑貨店と言えば、衣類から農機具まで何でもそろっていた。店は非常に繁盛したため、彼は、店と郵便局の経営に専念しようとして、教員をやめた。彼は自分でレスブリッジやカードストーンから荷物を運送した。

次にタナー副管長はカードストーンで高校教師となり、家族共にそこに移った。このカードストーンでの8年の間に彼は町会議員になり、小学校長になりスカウトの隊長になり、副監督になりその後、カードストーン第1ワード部の監督になった。

彼の謙遜さと指導力は、彼が副監督として、また執事定員会指導教師として働いていた時、その行動によっていかに発揮された。その執事の少年のうち何人かは定員会の集会に出席していなかった。彼は、少年たちの家庭を訪問して、すぐに原因をつきとめた。彼らには日曜日に着て行く立派な服がなく、仕事着を着て教会へ行くのをためらっていたのである。次の日曜日、彼は少年たちと協定を結んで、仕事着のままで神権会に出席し、少年たちに会った。言うまでもなく、彼はこれら

の少年たちの愛を勝ち得たうえ、まもなくこれらの少年たちは完全に活発になった。

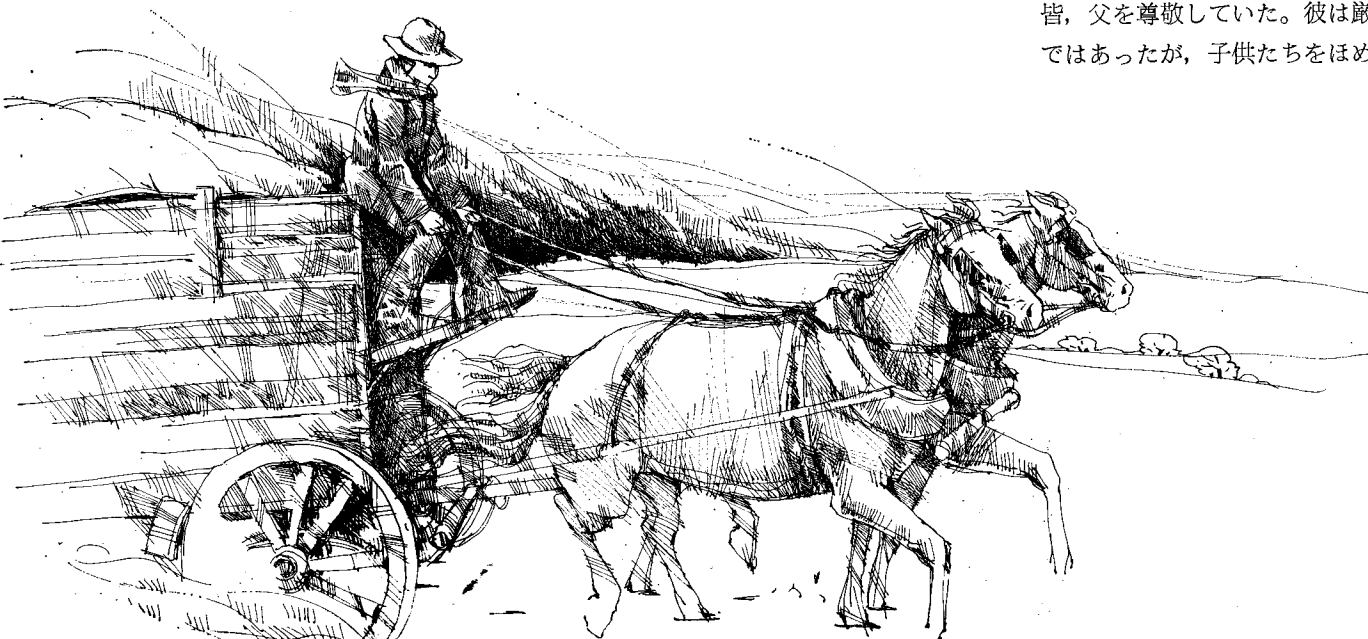
この間、彼は教師の給料を補うために、保険の外交をしたり、洋服を売ったりした。また、2頭の乳牛を飼い、上のふたりの娘は牛乳びんを腰のまわりと肩に結びつけ、雪道をかきわけて毎日牛乳を配達した。タナー姉妹は5人の娘の着る物をすべて作った。家族の者は皆、家の仕事で非常に忙しかった。娘のルツが言っているように「あの恐慌の時代には、他の子供たちは皆、貧乏を身にしみて感じているように見えました。でも私たちは決してそんなことはありませんでした。私たちは忙しすぎたんです。」

このようにして、タナー副管長は小さいうちから子供たちに、勤労と人から信頼されることの大切さを徐々に教え込んだ。彼は子供たちをしつけるのに、尻をたたくこともあったが、ほとんどの場合、厳しい目つきでにらむだけであった。ルツはそのことを思い出してこう言っている。「私にはそんなことできないわ。だって、お父さんがにらむんですもの。」5人の娘たちは皆、父を尊敬していた。彼は厳格な人ではあったが、子供たちをほめたり、



(左) 1921年タナー家の最初の家と初めての子供

(上) 結婚して数カ月後のタナー副管長夫妻。共に学校で教えていた

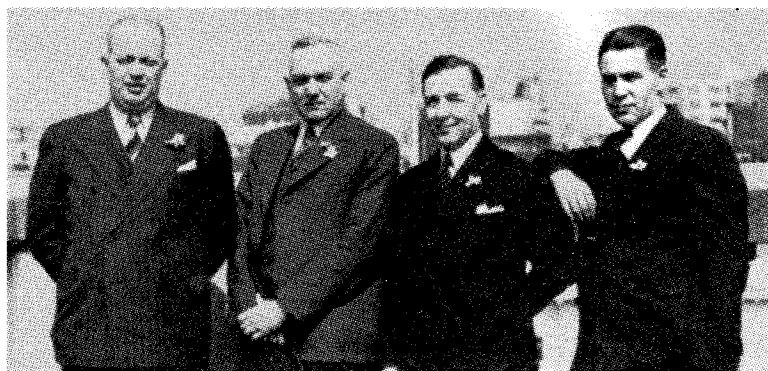


また彼らがけがをしったり病気のときには、慰めることをためらうような人ではなかった。

公衆の面前で表わすことはないものの、妻に対する彼の愛と感謝の気持は彼がタバナクルの演壇上にある自分の席に行く際に、彼女の方をちらっと見たり、また彼女の手に触れていたりすることで明らかである。彼女は、彼にとって大きな慰めと強さの源泉である。

1935年、アルバータ州で新しい政党が勢力を増してきて、タナー副管長はその党職に立候補するよう説得された。この時彼は、社会資産政府の立法府議員に選ばれた。このため、彼は自分の小さな家族をカードストンからエドモントンに移すことになった。しかしこの引越しも、彼と妻が注意深く、慎重に考慮してはじめて、行なわれたものであった。

タナー副管長は、それまで議会に一度も登院したことはなかったが、議員の議長に指名された。彼は、この63人の議員からなる堂々たる団体の議長を務めるにあたって、組織力と能率的にことを進める才能とをいかんなく発揮した。彼は、議事手続きに精通しようと、毎日毎晩勉強に励んだ。それ以来彼は、「全生涯にわたって、まだ用意のできていない責任が次々私に与えら



れてきたように思えます。でも、ひとつひとつの責任を果たすことによって自分がそれまで全く及ばないと思っていたこともできるようになりました」と言っている。

彼の能力と偉大な可能性は、アルバータ州知事のエイバーハート氏の注意をひき、1936年12月、その自治体の部長となるよう要請された。彼自身は、教育か自治関係を担当するよう要請されるものと考えていたが、土地・鉱業部長に指名された。この職は後に、ふたつに分割されて、鉱業部と土地・森林部になった。ふたつの部の長として、彼はアルバータという眠れる宝庫に埋まる莫大な量の原油をはじめ、あらゆる天然資源について管轄する責任があった。

タナー副管長が資源保全計画を始め

た時、彼自身は言うに及ばず、州にとっても、偉大な機会が待ち受けていた。

彼は、カナダの他の州はおろか、他の国々の模範となる法律を議会に提出した。彼の助力によって、アルバータ州は、カナダでただひとつ、負債のない州となった。

彼とタナー姉妹は、数多くの社会的義務と責任を、暖かく、穏やかな威厳をもって受けてきた。そのため、彼ら自身のためにも、教会のためにも、多くの人々と親交を得た。

彼らは、カナダやイギリスの数多くの有力な人々から賞賛と尊敬を勝ち得た。イギリスでは、彼らは故ウィンザー公の公式の招待客となり、またビーバーブルック卿をはじめ、その他の政府高官にまみえる機会もあった。南アルバータでエリザベス王女と共にスカ

(上) 1931年、アルバータ州の鉱業・土地長官としてイギリスを旅行中のタナー兄弟（一番右）

(右ページ上) 1949年1月、レスブリッジのスカウト大会にて。この時、N・エルドン・タナーは、若いスカウトの隣りに座っていたが、集会の管理者はふたりに立つように言い、まずスカウトを指して「これが現在の君たちだ」と言い、次にタナー副管長を指して「将来、君たちにはこのような立派な人になってほしい」と言ったという。

(下) 同時にふたつの省の長官を務めていた1940年代に撮影したもの。



ウトたちを観閲したのは、大きな名誉であった。後に女王となられた時も、彼らは女王とフィリップ公と共に食事をする機会があった。また、西インド諸島のバルバドス政府に招かれ、1カ月間、石油とガス資源に関する立法の起草を助けたこともあった。

N・エルドン・タナーの全生活は、福音の原則に対する、ゆるぎない忠節と献身に満ちている。エドモントンで16年間、政府の要職にあった時、彼は教会のエドモントン支部の支部長を務めた。この支部は、最初は、二階の一室を借りて、15人程で集会をしているにすぎなかった。しかし、初めて教会堂が建設された時、出席者は350人までになっていた。さらに、エドモントンで大学に通う教会員のために、素晴

らしいインスティテュートの建物ができた時、私たちは皆、大喜びしたものであった。作業着に身を包んで、彼は他の教会員たちと共に働いた。必要とあらば、申しむべき仕事など何もなかった。ブラウン姉妹と私は、エルドンが支部長をしている間、1年半程、エドモントンに住んでいた。私たちは彼の影響力の強さに驚き、また教会内外の人々が一様に彼を賛えるのを見て、心暖まる思いがした。

あらゆる分野に秀いでたナサン・エルドン・タナーの進歩の跡は、一步ずつ、段々と高い責任を着実に果たしてきたことに示されている。次々に訪れる新しい高い責任は、彼の成長と業績の成果であった。1952年、政府での仕事はすでに終わったと感じた彼は、辞職して、カルガリーに移り、そこで新しく設立されたカナダ・メリル石油の社長になった。およそ2年間そこに留まり、ある程度の金銭的成功も得た。

1954年、彼は、カナダ横断パイプライン株式会社の社長になるよう要請された。この会社には、アルバータからモントリオールまで、カナダ横断パイプラインを建設する、3億5千万ドルにも及ぶ計画があった。しかしその計画は、混乱と競争、また連邦政府の困難な状況などで、泥沼にはまり込んでいた。そこで、関係者の間では、ナサン・エルドン・タナーこそカナダでただひとり、種々の利害をひとつにまとめて、政策と合致するラインを建設することのできる人物であるということ意見が一致した。最初、彼は断わったものの、アルバータ州知事のアーネスト・C・マニングや、カナダ通商産業長官のC・D・ホウが彼の愛国心に訴えたため、彼は不本意ながらも、新しい石油会社を去って、この巨大な計

画を進めることになった。

彼はその時、新しいカルガリーステーク部の部長に任命されたばかりであった。そのため、トロントへ引っ越す用意など何もしていなかった。会社としては、トロントに本部をおくつもりであった。しかしどうしても彼の力が必要だったため、本部をカルガリーに移すことに決定した。この仕事で、しばしばカナダの東部へ旅行する必要があるが生じたが、彼は週末には必ず、教会の仕事を果たすために家へ帰った。彼の生活では、いつも教会が第一となっている。まず神の国と神の義とを求めるならば、私たちのためになる他のものがすべて添えて与えられることを、彼は心から信じているからである。

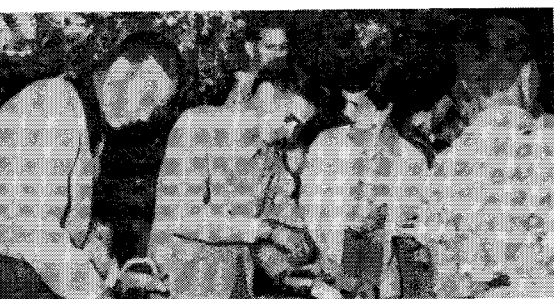
こうして、何百という会社から石油を買いそれをカナダ全土はおろか合衆国の一部にまで販売しながら、カナダ5州にまたがって、3,600キロに及ぶパイプラインを建設するという、膨大な計画が始まった。ある当局者が言うように、「それは、大陸横断鉄道の建設以来の大事業であった。しかも、それは4年以内に完成した。」1959年に彼の5年間の契約が切れるまで、会社は莫大な成功を収め、彼自身はカナダの人々から尽きることのない感謝を受けた。

夫妻が、1952年にカルガリーに引っ越して来た時、タナー副管長の教会での最初の責任は、ワード・ティーチャーであった。タナー姉妹はその時のことを回想して次のように語っている。

「ワード・ティーチングから戻って来た最初の晩、私は『ワード・ティーチャーになってどんな気持?』と尋ねてみました。多分、エドモントンで16年間も支部長を務めたあとで、いささか意気消沈しているのではないかと思っ



たからです。ところが、私はそれに対する夫の答えに驚きもし、心が開かれた思いもしました。」 タナー副管長はこう言ったのだ。「もしすべてのワード・ティーチャーが、この召しで主の望んでおられることを皆果たしたら、監督の仕事は、現在の半分以下で済むようになるだろう。」



後に彼はレスブリッジステーク部の高等評議員に召され、また1953年11月15日、カルガリーステーク部が組織された時、彼は初代のステーク部長となった。

その後7年間、タナー副管長とタナー姉妹は、カルガリーで友人や子供たちや孫たちに囲まれて、楽しい生活をおくった。

タナー家は常に固い家族のきずなで結ばれており、今ではタナー副管長はできるだけ多くの時間を、5人の娘と26人の孫、そして3人のひ孫と過ごすことにしている。

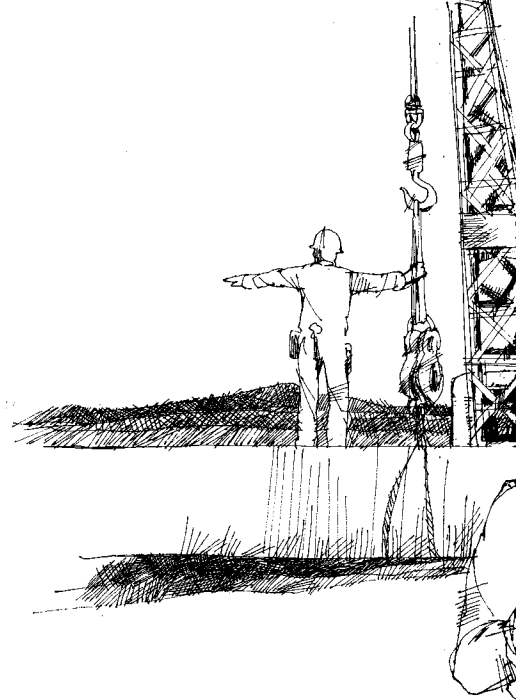
タナー副管長夫妻は、彼らの「夢の家」をカルガリーに建てるように計画し、やっと建て終わって住み始めた時彼に十二使徒評議員会補助の召しが来た。そこで彼らはユタに移った。

彼はこの召しを受けるにあたって、

(左下) 1959年野外活動で楽しむタナーステーク部長

(右下) 1936年のタナー家族。前列左からタナー副管長、娘のヘレン、タナー姉妹、後列左より、イザベル、ゾラ、ベス、ルツ

(右上) ソルトレーク市の自宅にて。タナー副管長夫妻



教会の総大会でへりくだって証したがその言葉に、主の御業のためには無私の献身をするという彼の態度がよく表われている。「私は全力を尽くすつもりです。そして、私は主の御業のためには喜んでこの生命を捧げたいと思っています。」彼は1960年10月9日に任命を受けた。

その直後に彼は要請を受けて、デビッド・O・マッケイ大管長と私に同行してロンドンに行き、新しいハイドパーク教会堂の献堂式に参列し、イギリスとオランダにおけるステーク部の設立を助けた。このステーク部の組織の終わった4日後、彼はロンドンで西ヨーロッパ伝道部の伝道部長として働くよう召された。この伝道部にはイギリス国内の伝道部、フランスのふたつの伝道部、それにオランダ伝道部が含まれることになった。

1962年10月、タナー長老は、十二使徒評議員会の会員に召された。1963年1月には、ソルトレーク市へ呼び戻され、系図協会の会長会の責任を受けた。彼は、1963年10月4日にマッケイ大管長の第二副管長として召された後もしばらくの間、この責任にあった。1970年1月のマッケイ大管長の逝去の後、彼はジョセフ・フィールディング・ス

ミス大管長の第二副管長に任命され、さらに、1972年7月のスミス大管長の逝去に伴い、彼は、私たちの愛する大管長ハロルド・B・リーの第一副管長に任命された。

今日、教会の偉大な発展が続いている。そして教会幹部による重要事項の決定に際して、タナー副管長の判断力と謙遜さは、重要な役割を演じている。彼は深い理解力と同情心の持ち主である。彼の献身は、彼が大管長会の召しを受けた時の言葉に表われている。

「私は皆様が示して下さいった信頼と支持の挙手に対し、皆様すべてに心からの感謝を申し上げます。私は、神の王国を建設するため、主がこれまで私を祝福して与えて下さったあらゆるものを使って、この召しを果たすことを、皆様と神に約束いたします。」

タナー副管長の秘書であるラルー・スネフは、タナー副管長についての感想を求められて、次のように言っている。「承認を必要とするようなことを迅速にさばくその能率と能力は、いつも驚くばかりです。本当に鋭い観察力をお持ちです。役員会の同僚の方々が皆、口をそろえて私に言うことは、副管長の公正さ、またいつでも問題の両面から意見を聞く態度に感嘆している



「タナー副管長の人生は、変わりゆく世にあって不変のものであり、また、個人と国家の高潔さを救おうと思うなら、霊的価値をその核として再教育する必要のあることを証し続けるものである」

ということです。皆、副管長の率直さに感謝し、だれでもいつも副管長のとる態度を知っています。副管長は忠誠の意味を安売りする方ではなく、義しい原則のためには、決して自分を曲げない方です。

副管長は、訪問者にはていねいで、優しく、また特に若い人々と会うのがお好きです。副管長の事務所の秘書たちは、副管長の鋭いユーモアのセンスと絶えざる親切と思いやりに感謝しています。」

タナー副管長の人生は、変わりゆく

世にあって不変のものであり、また、個人と国家の高潔さを救おうと思うなら、霊的価値をその核として再教育する必要のあることを証し続けるものである。彼は、人が神の子であり、この人生で神聖な目的のあることを知っている。霊的価値というものは、人の心の中でのみ働かうものである。そして彼は生涯を通してこの模範を示してきた。

たぐいまれな行政能力と疑いえない高潔さを持った彼は、公職にいた間その率直さのゆえに、政敵からさえそ

の名を知られていた。彼は、偉大な信仰と勇気と堅固さを持つ謙遜な人であり、教会の責任にその身を捧げる有能な指導者である。また献身的な夫であり、父親でもある。教会の高い職に召されている人で、ナサン・エルドン・タナーほど、豊かな天性とそれ以上に数多くの訓練と経験という背景を持って選ばれた人はいない。私は彼に対し大きな本能的な愛と、わが子のような情愛を感じるのである。この高い召しに在る彼を、主が祝福し、支持して下さるように。

当時の数多くのモルモン教徒と同じように、マリオン・G・ロムニー副管長も、幼少にして独立心を学んだ。1951年10月6日に十二使徒評議員会の会員として聖任されてからは言うまでもなく、生涯を通じて、自分と愛する人々を支えるためにいろいろとやり繰りしてきた。ロムニー副管長が指導にあたり、豊かな靈感をもたらした福祉計画は、召されて初めて着手したのではなく、生涯を通してすでに知っていた生き方を具体化したものであった。彼の経験は、広くステーク部やワード部のわくを越えて得られたものであった。それは子供の時、家族を養うために働いたことから始まっていた。その経験は彼に自然にやってきた。

マリオン・G・ロムニーは、1897年9月19日、メキシコのコロニア・ジュレズで、アメリカ人のジョージ・S・ロムニーとアルテメシア・レッド・ロムニーを両親として生まれた。彼は、移民学校で教育を受けた。その後メキシコに動乱が起こったため、移住民たちは北方へ追放されたが、彼はアイダホ州オークレーでさらに教育を受け、続いてリックス・アカデミー（現リックス・カレッジ）に学んだ。

1926年、彼はユタ大学で理学士の学

位を取得して卒業し、1932年には法学士の学位を取得した。後に彼は法学博士号も得た。彼が法律の分野で訓練を積んだことは、後に教会幹部に召されてから、地域社会における政治活動に関して道義上の問題がたたかわされたとき、幹部たちの討議を進める上で、非常に大きな真価を発揮している。

弁護士の資格を得てからは、11年間も法曹界で活躍し、その間、郡検事補助、地方検事補助となり、市検事補助にもなった。また、州の議会やアメリカ陸軍でも動いている。

ロムニー副管長の卓越した指導力はいつも指導的な地位にあることから明らかである。彼はソルトレーク市第33ワード部を監督として管理した。今でも彼のことを監督と呼ぶ人がいる。またボンネビルステーク部でステーク部長も務めた。そして、1941年4月6日に末日聖徒イエス・キリスト教会の教会幹部としての第一歩を踏み出し、以来31年間この地位にある。最初の10年間は十二使徒評議員会補助として、後の20年間は十二使徒評議員会会員として務めた。そして、どんな職や召しや委員会にあらうと立派に任務を果たしてきている。

30年間というものの、彼の思いの大半



第二副管長 マリオン・G・ロムニー

— 義 の 象 徴 —

十二使徒評議員会会長
スペンサー・W・キンボール

を占めてきたものは、他の幹部の兄弟たちと同様、伝道活動のことである。彼の特別な責任の中には、メキシコやヨーロッパ、アジアでの仕事が含まれている。伝道活動と共に、彼の心を占めるものはホーム・ティーチング活動であり、ロムニー副管長はこの活動を特に強調している。進んで監督にホーム・ティーチングの責任を与えて欲しいと要求し、若い同僚を割り当ててくれるよう求める程、熱心である。彼の人生訓は、もし近所に見知らぬ人がやって来たら、その人は友人を必要としているからホーム・ティーチャーを召すべきだという考えである。ホームティーチャーは、だれか新しい人がやって来るかどうか調べる必要がある。

また、聖餐会に出席することが義理と信じているなら、ロムニー副管長のワード部へ行ってみるとよい。そうすれば、急で、やむにやまれぬ責任がない限り、彼が毎週、安息日の集会に出席していることがわかるであろう。食事時にロムニー副管長の家庭に足を踏み入れてみるとよい。そうすれば、

半世紀近くの間、その家から朝な夕な聞こえてくる祈りの言葉を耳にすることであろう。もし什分の一の記録が公開されたら、ロムニー副管長の家庭が福音に従って生活し、戒めを守り、主を愛していることがよくわかるであろう。彼の心は、神の御旨がそのまましみ込んでいられる程、比類ないものである。

メキシコ地域を管轄する新しい責任が与えられた時に示した、彼の、これらの国々と国民に対する関心は、心暖まるものであった。ロムニー副管長はメキシコ人が使うスペイン語の勉強を始め、人々の考え方を学び、彼らの必要なものを感じ取り、彼らの気持が手に取るようにわかるようになった。その結果、メキシコの聖徒たちは、非常に豊かな祝福を受けることになった。洞察力と呼ばれるに値するものがあるとするれば、ちょうど彼がメキシコで駆使したような、先を読み抜いた計画を立てることである。今日、数千というメキシコの子供たちが何らかの形で学校へ通っているが、これは、ロムニー

副管長の先見の明によるものである。

ある人々は、特に幹部の兄弟たちの管轄地域が変更になるまで、彼がはじめからメキシコ人を特別な気持で愛していたのだと考えていた。だが彼の責任が、南アフリカ、西ヨーロッパ、スカンジナビア、そしてアジアへと変わっていても、これらの国々の人々とその要求や問題に対して示した関心の深さは、メキシコの人々に示したものと比べて何ら劣るものではなかった。それゆえ、これは彼の個人的な好みの問題ではなく、責任を与えられればこ

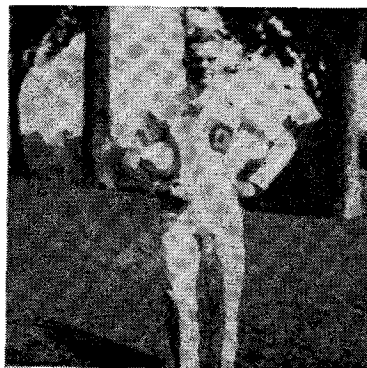


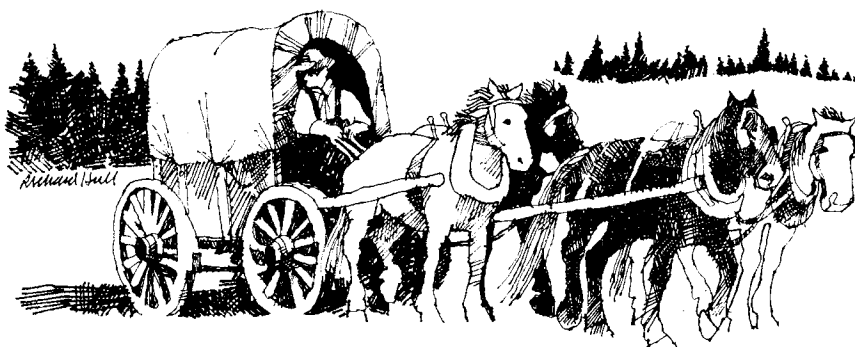
1921年オーストラリアで宣教師をしているときのマリオン・G・ロムニー



(左) 1917年から20年までリックスカレッジのバスケットボールチームの主将であった

(下) 1916年ソルトレーク市にて。フットボールの選手であった





の偉大な人物があらゆる方面に相当の義務を自覚していたからであると結論づけることができる。彼の人間愛は、世界の人々に及ぶ程、大きいものであった。ヘンリー・バン・ダイク¹の言葉を借りれば、「彼は人の心に、何百という言葉で語りかけることを学んだ。自分が至高者の僕であることを君主に告げるためには王宮まで出向き、自分が神の子であることを農夫に告げるためには丸木小屋まで出かけた」のである。

そして、今ではまた責任が変わりロムニー副管長の心は、再びあらゆる国々の人々に向けられている。世界中をくまなく旅行したため、彼は、世界中の様々な人々やその文化、またその問題や要求をわきまえている。現在、彼の活躍の分野は、世界中に及んでいる。

教会の人々にとって、シオンの息子が教会で指導力を発揮して成長し、進歩していくのを見るのは最も喜ばしいことであり、また大きな満足の得られるものである。彼は、執事、祭司、長老、宣教師という階段を昇って来た。監督になり、ステーキ部長になり、十二使徒補助となり、使徒となった。そして今、彼はハロルド・B・リー大管長、ナサン・エルドン・タナー副管長と共に教会の大管長会を構成する地位にいるのである。

ロムニー副管長を深く知り、また長年、共に働いてきた私たちは、彼がリー大管長の副管長に選ばれても、少しも驚かなかった。私たちは、だれでも皆この高い召しに在るロムニー副管長を支持し、この大管長会を構成する3人の有能な人々の指導のもとに前進する業に、全力を尽くして貢献したいと願うのである。

タゴール²は言った。「あらゆる子供は、神がまだ人間に望みを抱いておられるというおとずれを携えて、この世にやって来る。」確かに主は、マリオン・G・ロムニーが、その宿題をなし遂げ、数々の経験をし、偉大な責任に

召される備えができるのを、じっと待っておられたのである。

ロムニー副管長の優れた指導力とその特性は、彼の先祖の中に、すでに歴然としているように思われる。マイルズ・ロムニーが、結婚したばかりの妻のエリザベス・ガスケルと、イギリスのプレストンの商店街で買物をしていた時のことがあった。その時彼らは、オルソン・ハイド³とヒーバー・C・キンボール⁴が福音を説いているのを聞いたのである。彼らは1839年まで2年間、教会には加わらなかったが、感銘を受けたことは事実だった。後に彼らは教会員となり、アメリカへ移住して、イリノイ州ノーブーに行った。

大ロムニー家族の頭となるマイルズ・パークが生まれたのは、このノーブーであった。家族は結局平原を横断することになり、ソルトレーク盆地まで行った。ここでジョージは、しばらくソルトレーク神殿建設のために働いた。ある日、彼らが什分の一事務所にいると、ブリガム・ヤング大管長が彼らに話しかけ、南下して「マディ開拓



地」へ行くように言った。南へ下った彼らはユタのセント・ジョージに定住することになり、それ以来、ここは何かにつけ、ロムニー家の本拠地になった。

ロムニー副管長の家族の母方にも立派な人々がいた。アルテメシア・ロムニーの祖父にあたるソロモン・チェン



1922年オーストラリアのシドニーにて
宣教師のマリオン・G・ロムニー長老

バレンは、ブリガム・ヤングと共に教会に加入し、ジョセフ・スミスの家族を個人的に知っていた。彼もヤング大管長と共に平原を横断し、言い伝えによれば、ヤング大管長の幌馬車を御していたという。

メキシコでのロムニー家の物語は1885年に始まった。この時、彼らは他の聖徒たちと共に、メキシコ政府の許可を得て、北メキシコに入植したのだった。1897年、マリオン・G・ロムニーはここで生まれた。

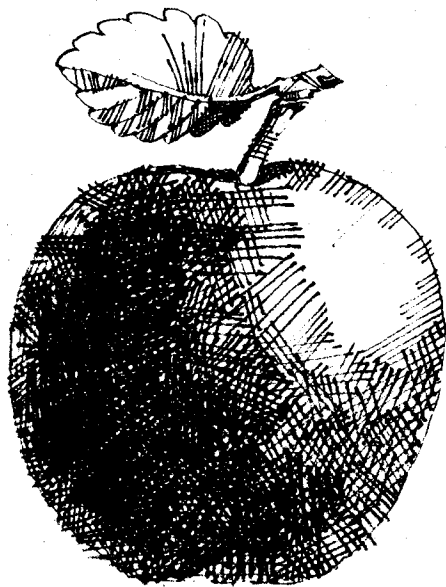
それぞれの家族が自分で家を立て

た。大体どの家にも庭があり、小さな果樹園があり、牧草地があり、アルファルファやとうもろこしなどを植えた小さな畑があった。共同体の牧草地は、皆に所有権があったため、マリオンや同年齢の子供たちは、毎日牛を連れて、牧草地のあちこちを歩き回った。彼が生涯、座右の銘としているものは、彼の父から聞いた、「うねの最後の最後までくわを入れないうちは、決して仕事をやめてはいけない」という言葉であった。

家族の長子として、マリオンには仕事は山程あった。同じ年頃の少年たちが学校でフットボールやバスケットボールに興じているのを横目で見ながら丘の上で家畜の番をすることは、大そうつらい仕事であった。彼は、牛の乳しぼりがうまくなって、30メートルも離れたところにいる猫の口めがけて、乳をとばすことができるようになったと自慢している。ある時彼が牛を追って、彼らの敷地とマクレラン家の敷地の間の道を通っていると、マクレラン家のへいぞいにリンゴが熟しているのが目にとまった。そこまで行って、もごうとは思わなかったが、何度か牛に向かって石を投げつけると、石が木の間を通るたびに、リンゴは決まって何個か落ちて来た。彼はそれを母親のところへ持ち帰った。「このリンゴは私たちの家のものではないですね。」母は戒めた。以後二度と牛に向かって石を投げることはしなかった。そして少年は、正直について大切な教訓を得たのだった。

女や子供たちが、馬車や乗り物に乗って、列車へ殺到していた、あの出発の朝のことだったと思う。ジョージ・S・ロムニーは、15歳のマリオンをかたわらに呼んで、困難に直面している現況を説明した。人々は生命の安全を求

めて国外に退去するところであった。ピアソンの駅の広場は、馬車や馬で混雑していた。男たちはメキシコに残るはずであるから、家族の長たる責任と家族の数々の問題に遭遇した時、母と弟と妹の面倒を見る責任はマリオン、おまえにある、と父はマリオンにはっきり言い寄せた。今やこの少年は成



熟し、人生の新しい意味を切り開き始めたのであった。

家族は、家長たる父親が合流するのを待って、しばらくエルパソにとどまった。その後、しばらくカリフォルニアへ行き、さらに、キャシア・アカデミーのあるアイダホ州オークレヘに移った。ジョージ・S・ロムニーは、自分の教育を完全に受け、教育機関で働きたいという希望があった。そのため彼は、アカデミーで教べんを執った。彼と弟のガスケルは、そこで若干の資産を持っていたが、自分たちの力で



(上) 1963年十二使徒評議員会会員のロムニー長老
(右) 1962年10月号の「インブルームメント・エラ誌」の表紙。
テンプル・スクエアにて



きるものは何でもやろうと、学校や教会の建築、また彼ら自身の家の建築のために、皆つぎ込んでしまった。生活は苦しかった。給料日が来た時、2家族19人のために、80ドルしか入らないことがあった。什分の一を納めようか。

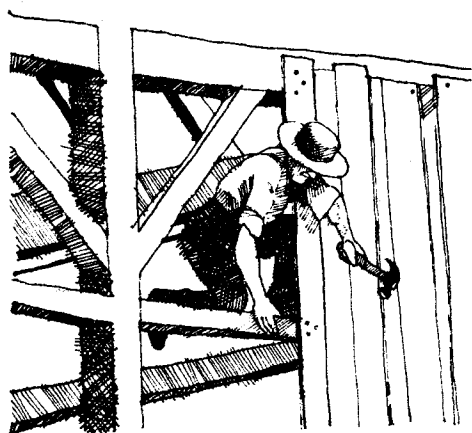
納めて一体やっていけるだろうか。もう収支決算などしようがない。今、什分の一を納められなくとも、主はわかって下さるだろうか。答えは『什分の一は即刻支払うべし』であった。着るものもほとんどないマリオンは、アイ

ダホの寒さの中を、お金を持って監督の家までとぼとぼ歩いていった。彼は什分の一の領収書を持って、家へ帰って来た。後に彼は、什分の一を納めるのに、あの時程つらい思いをしたことはなかったと話してくれた。

ロムニー家はオークレーに3年間住んだ。40エーカーの農場を耕して暮したつらい3年間であった。若いマリオンは、秋の収穫の時まで、しばしば学校を休んで、農作業の手伝いをした。彼は父から大工仕事を習っていた。家族の収入を助けるために、この才能も使った。

マリオンの父は、マリオンがまだ8歳の時に伝道に出ていた。若いマリオンが成長して、少年時代から脱皮しつつある時も、伝道は何かかすみがかかった遠いもののように思われた。家族の苦労が多かったために、この成長著しい少年にとって、伝道に出ることなどは全く問題外のことだったのである。

だが、この時家族はすでにレックスバークに移っていて、若いマリオンにも仕事があり、お金も少したまっていた。彼の言葉を借りればこうである。ある日、大会に出かけていって、十二使徒評議員会のメルビン・J・バラード長老⁵の話聞いた。バラード長老の霊的な経験は並みはずれたものであり、劇的でさえあった。聖歌隊用の席の一番端から、この青年は集会の間、ずっとバラード長老に目を向け、その信じがたい話に耳を傾けていた。彼の心には、新しく固い決意が湧き上がって来た。集会後、若いマリオンは父のところへ行行って、こう言った。「おとうさん、私は伝道に出たいと思います。」父は驚いてしまった。彼はかまわず続けた。「お金は少しあります。もし私と一緒に銀行へ行行って、不足分を借りてくれたら、私はすぐに出ます。」



(下) 1935年、州議会議員を務めたときのロムニー長老。その下は、妻のアイダ・ジェンセン・ロムニーと共に



ふたりは銀行へ向かった。親切な銀行員は彼を信用して、融資してくれた。マリオンは船でオーストラリアに向かった。

伝道から帰還後、ロムニー副管長はこの借金を無事返済した。

ロムニー副管長は、すでに子供の時に、自分の偉大な可能性のあることを知っていた。決して群衆の中に自己を見失うようなことはなく、彼のために備えられた人生は広く門戸を開き、数多くの機会が待ち受けていることを知っていた。

11, 2歳のまだ幼い頃、彼は祖父のL・H・レッドから祝福師の祝福を受けた。アブラハムとヤコブという高貴な血統から生まれた彼は、並の人物ではなかった。その祝福の中で、あなたは偉大な業を果たすための機会を待ち望んでいる、と告げられ、またこれを成し遂げるためには、生涯の初めから知恵と知識を求める必要があると戒められた。

様々な学校に通学して知識の探求に励む彼を見、あのような逆境を経験した彼を見る時、私たちは、彼がこの祝福を受けるに充分資格のあることがわかるのである。

祝福には「汝は多くの人々に福音を宣べるために召されるであろう。自らの選びになる天使が、汝の益のため、汝と共にあり、汝を守護している」とある。1920年のオーストラリアでの最初の伝道以来、彼は多くの人々に宣傳伝えているが、最近では、「多くの」人々が何百万という数に増加している。また、「自らの選びになる天使」によって守護されるとは、何という祝福であり、何という保護であろうか。

また、祝福のひとつには、次のように訓戒されているものがある。「うるわしい天来の声が平安をささやくのを

感ずる時、主が汝の近くにましますことを忘れぬように。」このマリオン・G・ロムニーは、そのささやきをしばしば耳にしている。彼はその平安が、自分の人生の一部であるかのように感じているのである。彼が祈る時、主が彼の近くにおられることを疑う兄弟はいない。彼の祈りは、それ程までに熱烈であり、その声も穏やかで、その嘆願も現実的で誠実であるため、私たちは主が確かに聞いておられると知るのである。彼の誠実さは、聞く者の心を動かすものであり、私たちは皆、ロムニー副管長が祈っているからこそ、私たちが天父にさらに近づけるのだと感じている。彼には、病いの人をいやすための特別のいやしの力も与えられた。最近、私自身が、心臓切開手術の事後治療にあたっていて、随分心細く感じていた時、彼は私の家に訪問してくれた。彼の帰る前、私は、祝福を与えてくれるよう頼んだ。彼の信仰の力と神に近くある信仰生活に完全な信頼をおいたからである。

ロムニー副管長の祝福は続く。「汝は、汝の理解の及ばぬ程、高き名誉を受け、人々に尊敬されるであろう。汝の勧告が求められ、汝の子孫は汝をほめ讃え、汝の信仰は汝を固く支えるであろう。汝の信仰は王国の神秘を解き明かし、人々の力では理解し得ない事柄も、汝の前では平明なものとなるであろう。将来に関する示現が汝の心を開かれ、あらゆることに主の御手が働いているのを見るであろう。何とならば、ジェレドの兄弟の持った信仰と違わぬ信仰が、汝のものとなるからである。……汝は主の御業を進めるためにより高い信任と指導の地位にあって働くよう召されるであろう。」

ロムニー副管長を長い間、個人的に知っていた私たちは、これら長期にわ



「……彼は人の心に、
何百という言葉で語り
かけることを学んだ。
自分が至高者の僕であ
ることを君主に告げる
ためには王宮まで出向
き、自分が神の子であ
ることを農夫に告げる
ためには丸木小屋まで
出かけた。」



最近のロムニー副管長夫妻

たる約束が実現しつつあることを知り
また、マリオン・G・ロムニーを今日
あらしめたものは、5、60年の努力で
はなく、この偉大な人間を、今日彼の
持つ機会のために備えさせるべく、あ
らゆる偉大な性質と機会、そして、試
練、特権、チャレンジ、時を完全にひと
つのものにつくり上げた、永遠のもの
なのである。キリストの御名とその福
音は、単に口先だけのものではなく、
彼の意識の中で、深く耕されたもので
ある。

ロムニー兄弟は、もしアイダ・ジェ
ンセンがリックス・アカデミーで教え
るために、ちょうど適当な時にアイダ
ホ・フォールズから出て来てくれなか
ったら、自分の生涯がひどく寂しいも
のになったであろうということを強調
してやまない人である。そのアカデミ
ーの校長であった彼の父に雇われたア
イダは、すぐにマリオンに会った。そ
の時咲いたロマンスの花は、1924年9
月12日の結婚以来今日まで、長い間咲
き続けている。アイダは逆境の時にも
栄光の時にも彼に寄り添ってきた。彼
らはふたり共大きな事故に遭遇してい
る。その時、ふたりとも、特に彼女の
方は、全くの奇跡によって命を失わず
にすんでいる。彼女は責任を果たす夫
を誇りに思い、夫が旅にある時、そし
て困苦にある時、夫を支え続けてき
た。

マリオン・G・ロムニーとアイダ・
ロムニーには4人の子供があった。そ
のうちふたりは長く生きる特権にあず
からなかった。ふたりの息子はそれぞ
れ結婚して、両親に愛される家庭を営
んでいる。カリフォルニアの実業家だ
るリチャードは妻のジョアンとの間
に大きな息子と娘がいる。ソルトレー
ク市で弁護士業を営むジョージと妻の
ジョアンとの間には、14歳から、生ま

れたばかりの赤ん坊まで、5人の子供
がいる。

マリオン・G・ロムニーの強さを知
りたいと思うなら、ただ彼が働くのを
観察し、困難な問題を幾つか彼と共に
解決してみるだけでよい。

また、彼の誠実さと情感の強さとを
感じたいと思うなら、彼が造り主に呼
びかけ、祝福を求めて嘆願する声に耳
を傾けるだけでよい。この人物がひざ
まずくところは皆、聖なる所となるの
である。

ロムニー副管長が教会幹部に召され
た時に与えられた祝福のひとつに次の
ようなものがある。「……わが業に対
する汝の信仰のゆえに、汝は幸いなる
かな。見よ、汝これまで幾多の艱難を
受けたれど……これより後、汝と汝の
家族を、さらに汝の小さき者たちまで
も祝福せん。かくして、彼らも信じ、
真理を知り、汝と共に教会員の中に数
えられる日も来たらん。」

新しい責任と新しい機会と新しいチ
ャレンジを受けた彼のために、彼の家
族が、友人が、そして教会の人々が祈
ることと言えば、主が彼を、あらゆる
必要な祝福をもって、祝福して下さ
るように願うことである。これまで、高
くともしびをかかげてきた彼は、これ
から後も一層高くかかげ続けることであ
ろう。神よ、マリオン・G・ロムニ
ーを祝福したまえ。

注)

- 1) ヘンリー・バン・ダイク (1852—1933) アメリカの牧師、教育者、作家
- 2) ラビンドラノフ・タゴール卿 (1861—1941) インドの詩人
- 3) オルソン・ハイド (1803—1878) 1835年2月15日使徒に聖任された
- 4) ヒーバー・C・キンボール (1801—1868) 1847年12月27日、ブリガム・ヤングの副管長となる
- 5) メルビン・J・バラード (1873—1939) 1919年4月7日使徒に聖任された

ある小さな喜び

ジョージ・デュラント

私が第9学年（中学3年にあたる）の年、何の目的もない宙ぶらりんのような生活を送っていた年のことだった。自信などはおよそ私の縁のないことで、私の行動は、ほとんどといってよいほど、劣等感に左右されていた。次のような経験があんなにも明るく先を照らす星となったのは、おそらくは自分への疑惑が心に弱く射していたせいだったと思う。

金曜日の3時限が問題の時間だった。出席をとる時に、生徒全員は「準備してあります」「準備していません」のどちらかを答えなければならなかった。答えが「準備してある」であれば、その日話をするのであり、「準備していません」であれば、何もしなくてよかった。私はすぐに、「準備してありません」と答えれば荷がおりると思い込んだ。

何週間か過ぎたが、私は名前を呼ばれるたびに、落ち着き払って「準備してありません」と答えていた。友だちも前にならえだった。何人かグルーブなので、ひとりずつ名前を呼ばれても平気だった。

ある時教師と話していて、私は名簿の私の名前のところがずっと準備していない印なのに気がついた。私は困った。しかしそうかと言って友だちの前に立って話をする気持にはなれなかった。皆の前で話をするのは、世の中で一番恐ろしいことのように思われた。

私の前に、大好きな女の子がすわっていた。好きでたまらないので登校の時に気のきいた言葉をかけようと考えてるのだが、いざ彼女の前に出るとボーッとして言葉が出なくなるのだった。

ある日、教師が出席をとって私の名前を呼び、私は「準備してありません」と答えた。その時である、あの少女が私に言葉をかけたのは。彼女は振り向いて私を見つめ、「準備したら?」と言った。その日、生徒たちの発表は何も耳に入らなかった。私は好きなことが全部自分にやってきたように、「ぼくを好きじゃなかったら、どうしてぼくのことを気にしてくれるものか」と、ただそれだけを考え続けていた。

家に帰ると、私は新聞からひとつの記事を捜し出し、覚え

込んでしまうほどに繰り返し繰り返し読んだ。そして記事を切り抜き、折りたたんで定期入れに入れ、1週間肌身離さず持ち歩いた。

次の金曜日になり、私は少女の後ろのいつもの席についた。教師が顔をあげずに出席簿を読み上げ始めた。ついに私の名前が呼ばれた。私はゆっくりと、大変な言葉を口に出した。「準備しました。」

教師は名簿を読むのをやめると、私を見つめ返した。私は首をしゃんと上げてこくんとうなずいた。少女は振り返ってほほえんだ。友だちは「裏切り者!」と言うように私を見た。それからすわって自分の番を待つ間、自分のしたことを考えると、我ながらこわくなった。その時、私は一大発見をした。こわがってそのために義務を怠るのでなければこわがたって大丈夫ということである。

順番が来た。私は前に出て話し始めた。私は言葉を全部暗唱していた。最後の言葉を述べてから、私は一瞬その場に立ち止まったが、その時にすばらしい考えが私の頭をかすめ、心にとどまった。私は自分に言った、「君が好きだよ。」

私は席に戻って腰をおろした。どの発表も上の空だった。ただ胸がドキドキして、「これこそぼくの生き方なんだ」という気持ちだけが次々と心に沸き、沸いては去っていった。

「準備していません」という言葉が自分の荷を軽くし、圧迫感をなくしてくれることは確かである。「準備していません」と言えば何もしなくてよい。しかしそれでは、何かをして「自分が好きだ」と言えるようになったあの喜びを決して得られないだろう。



デボラ

作：メアリー・L・ラスク

絵：ジュディー・ケイプナー

イスラエルのひとびとにとって
くるしく不安な日がつづいていま
した。ヤビンというカナンの悪い
王がせめてきて、イスラエルをく
るしめたのです。ぐんぜいのかし
らはシセラという人でした。シセ
ラは900両もの鉄の戦車を馬でひ
かせてイスラエルにおしよせ、20
年のあいだ人々をはくがいしまし
た。

ちょうどそのころ、ラピドテの
妻で、女予言者のデボラがイスラ
エルをさばいていました。デボラ
はエフライムの山のふもと、し
ゅろの木のかげにある家に住み
神をわすれず、自分のもとへやっ
てくるイスラエルびとをさばきま
した。

デボラはイスラエルのひとびと
をたすけたいと考えていました。
そしてある日、デボラはバラクと
いう強い若者^{わか}をよんでこう言いま
した。「イスラエルの神、主はあ
なたに、こうめいじておられます。
『ナフタリのぶぞくとゼブルンの
ぶぞくから1万人の兵士をえらん

で、タボル山へ行きなさい。わたしはヤビンのぐんぜいのかしらであるシセラとその戦車と兵士たちを、あなたたちの手にわたそう。』

するとバラクはデボラに「あなたがいっしょに行ってくださいるのでしたら行きましょう。しかしあなたが行ってくださらないのであれば、私も行きません」と言いました。

デボラは答えました。「はい、行きましょう。しかし、このいくさはあなたの手がらにはなりませんよ。主はシセラをひとりの女の手にわたされるでしょうから。」

そこでバラクはイスラエルの勇ましい若者たちを集めて、悪王ヤビンをせめにでかけました。バラクのぐんたいの中にはデボラもいました。

そして平地にさしかかったときバラクのぐんたいは、そこにテントをはっていたケニびとのヘベルに会いました。ヘベルはシセラがタボル山にのぼったことを、バラクに知らせました。

いっぽうシセラは、バラクが1万人の兵士をひきいてやってくるのを発見すると、900両の鉄の戦車と全兵士を集めて、イスラエル

をこうげきさせました。

そのとき、デボラはバラクに「さあ行きなさい。主はきょうシセラをあなたの手に渡されます。主はあなたの先に立って行かれます。」

主はバラクとイスラエルのひとびとを守ってくださいました。そしてにげていくシセラのぐんぜいは、みな殺されました。しかし、シセラだけはにげて平地のケニびとヘベルのテントにたどりつきました。

そのときテントの中にいたヘベルの妻^{つま}ヤエルは、シセラをテントの中へむかえいれ、毛布をかけてかいほうしました。

シセラはのどがかわいて水がのみたいと言ったので、ヤエルはぎゅうにゅうをもってきてのませました。

シセラはヤエルにテントの入口に立って、もし人が来て自分が中にいるかとたずねたら、いないとこたえてくれるようにたのみました。

そしてシセラはぐっすりねむってしまいました。ヤエルはテントのくぎをとり、ハンマーを手にもってシセラに近づき、くぎをシセ

ラのかめかみにうちこんで、シセラを殺してしまいました。

バラクがシセラをおってヤエルのテントへやってきたとき、ヤエルは「おはいりください。あなたがさがしていらっしゃる人をお見せしましょう」と言いました。バラクがテントの中に入ってみると、シセラはたおれて死んでいました。

こうしてその日、神はイスラエルの人々をたすけて、カナンの王ヤビンのぐんぜいをうちやぶられました。こうしてイスラエルのひとびとは力をまし、やがてヤビンをほろぼしました。

デボラとバラクは神をほめたたえて歌いました。

「イスラエルのあだをかえしてくださった主をほめたたえよう。

主が進まれるあとに、イスラエルはみなよろこびいさんでしたがつた。

すべての王よ、聞け、

すべてのしどうしゃよ耳をかたむけよ。

わたしは主に歌をささげよう。

わたしはイスラエルの神、主をほめたたえよう。」

よぶんな荷物

何年も前のこと、私たちのふるさとの町では、燃料としておもに木を使っていました。夏の終りから秋にかけて、私たちは馬を数頭つれて荷馬車で山に木をとりに出かけたものでした。荷馬車といっても前後にふたつずつある車輪が、^{れんけつぼう}連結棒という強くてかたい木でつながれているだけの簡単なものでした。

男たちと少年たちは朝はやくときには日の出前に遠い道のりを出かけていきました。お母さんがお弁当を作り、少年たちはそまつな荷馬車に乗っていきました。

広いキャニオン街道からひとたびそれると、山をこえ谷をわたる曲がりくねった小道は、せまくてけわしい岩だらけの道でした。

行くときはゆっくりでした。でも、たどりつくとすぐに仕事にとりかかりました。

切り倒した木は1頭の馬が荷馬車の方にひいていき、荷馬車にころがし入れました。しばしば丸太が長すぎて荷馬車のうしろにたれさがかることもありました。ようやく積み終わると、丸太の前と後ろをくさりで荷馬車にしっかりとしばりつけ、次に

よぶんな丸太を6本たばにして大きなくさりで荷馬車の後ろにつなぎます。

はじめ私は、もうすでに重い荷物を積んでいるのに、なぜよぶんな丸太を馬にひかせるのだろうとふしぎに思いました。でも、すぐにそのわけがわかりました。

登りの山道はけわしいのですが、帰り道は下り坂になるのでたくさん荷物を積んだ荷馬車は

小さな
お友だちへ

A・セオドア・タトル
七十人最高評議員会会員





急な曲がり角で転ぶくしたり、道をそれて走り出したりしないようにするためです。

荷を積んだ馬車が無事に山道をくんだりきり、広いキャニオン街道にたどりつくと、後ろにつけた丸太は、後で数がそろったときに運ぶよう、道のはしにころがして残しておきました。

時々、若い人々はなぜ自分たちがつらい仕事や訓練、また規則や両親の作ったとりきめなどに従わなければならないのだろうとふしぎに思います。でも両親は、私たちにこのような重い荷物が必要なことを知っているのです。

両親は、私たちが転ぶくしたり、道をそれたりしないようにブレーキのようなものが必要なことを知っています。このような余分な荷物は、私たちを強くしっかりした人物にするために必ず与えられます。

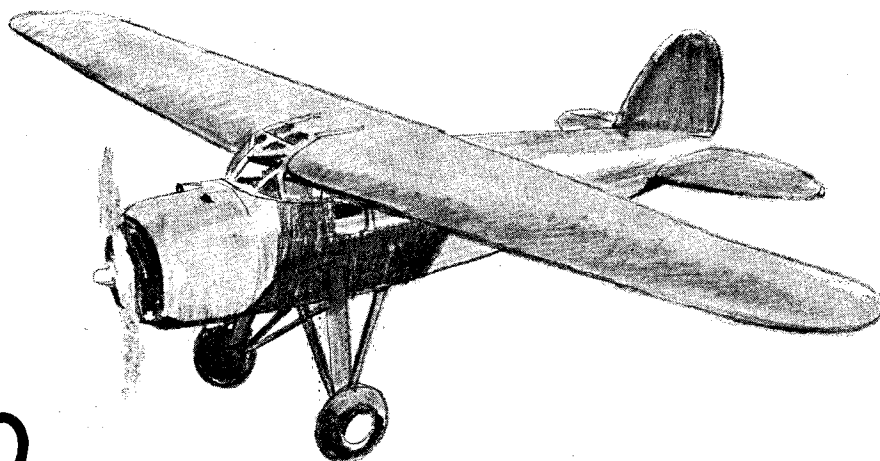
神の戒めを守ることによって神の律法に対しての従順を学ぶことは、人生の最も偉大な教訓のひとつです。

時々私たちは、重すぎる荷物を運ぶよう求められます。でもそんなとき、なぜそのような荷物が与えられたのかを考えてみてください。知恵と愛に満ちた天父が、私たちの人生を導き祝福してくださっていることがよくわかります。

ほんとうにあぶないのでした。重い荷を積んだ馬がけわしい山道でだんだんはやさをましてくる車を足をふんばっておさえるのはむずかしいことでした。

たとえブレーキで後ろの車を回転させないようにしたとしても、荷馬車は横すべりしてしまうのです。

重い荷車のほかに後ろに重い荷を引いているのは、適度に、荷車の速度を落とすためなのです。これは、馬が進むべき適当な速さをこえて走りすぎないように、また深い狭谷きょうこくにくいこんだ



森の パイロット

作：リンダ・R・ガンドリー

絵：ジェリー・トンプソン

ピーター・アグークは、ゆうびんひこうきをじっと見ながら、大きなためいきをつきました。ひこうきは、カラリと晴れたアラスカの空をくるくるまわっていました。もうすぐチャルキドシク空港の、土でできた細長いかさう路に^{さすい}着りくすることでしょう。

空港のただひとつのたて物であるまる太小屋の中で、ピーターは、いつか自分も雲をつきぬけ、さっそうとひこうきをこのでこぼこしたかさう路に^{さすい}着りくさせてみたいなあと考えていました。

「森のパイロット。」ピーターはつぶやきました。「森のパイロット、ピーター・アグーク。」

ピーターは、友だちのサム・ピトカのわらい声にびっくりして、ま昼のゆめからさめました。

「なにがおかしいんだ。」ピーターは、にやにやしている友だちの顔を見てたずねました。

「君がひこうきを見ている間、ぼくは君を見ていたのさ。またゆめを見てるのかい」サムはにやにやしていました。

ピーターは、顔が赤くなるのをかんじて

みんなに見られないように、むこうをむきました。でも、友だちが自分を見ているような気がしました。パイロットになりたいというのがなぜそんなにおかしいのだろうとピーターは思いました。

とつぜんピーターは、「友だちのマイクさんがひこうきを^{さすい}着りくさせるのを見ててなにがおかしいのさ」といっている自分の声を聞きました。

「なんだ、君の友だちなのか。知らなかったよ！」サムはびっくりしてさげびました。

「ほんとうさ」と、ピーターは自しんありげに見せようとしながらいいました。しゃべる前に考えればよかったと思いました。もうおそすぎました。なんとかしなければなりません。

「もしきみとパイロットが友だちなら、ちょっとだけでも、ぼくたちをひこうきに乘せてくれるようにしてもらえないかなあ」と、サムは期待してたのみました。

ピーターが答えようとする間もなく、さらに4人の子どもたちがベンチにこしかけました。みんなひこうきが^{さすい}着りくするのを見に来たのです。

「ぼくたちをひこうきに乘せてくれるって？」と、ひとりが聞きました。

「それはすごいや」と、もうひとりが大きな声でいいました。

ピーターは、ひこうきを見るのにいそがしくて聞こえないふりをしました。そして

ひこうきがっそう路におりて2, 3度はね、かっそう路のはしまではしっていくのをじっと見ていました。ゆうびんひこうきは、小屋からほんの少しはなれたところに止まりました。そしてパイロットが、ゆうびんぶくろをもっておりてきました。

「たのんでくれるかい」とサムはたずねました。

ピーターはかなしくなりました。知りもしないあこがれの人にたのむなんて、ピーターにはできないことでした。しばらくひこうきを見てから、友だちのほうにむきなおりました。

「サム、さっきはたぶんゆめを見ていたんだよ。ほんとうはパイロットなんか知らないんだ。名前だって知らないんだよ。」

ピーターは、パイロットがまる太小屋の近くにいたことを知りませんでした。ピーターはどうしてよいかわからず、うつむいてベンチにすわりました。ほかの子どもたちは、ピーターがひとりぼっちで考えこんでいる間に、ひこうきをもっと近くで見ようとかけだして行きました。ピーターは自分で自分にはらを立てていました。うそをついたことを知ったサムは、もうピーターをしんじてくれないことでしょう。

ピーターはひこうきのほうを見まし



た。小さな4人乗りの、銀色のしまの入った青と白のひこうきです。そうじゅうせきにすわるのはどんな乗りごちだろうと、ピーターは考えました。フォート・ユークンに住んでいるいとこのフレッドから先週きた手紙には、親しい森のパイロットのことが書かれていました。そのパイロットはフレッドをひこうきに乗せ、そうじゅうせきにさえもすわらせてくれたのです。いつか、パイロットがあまりいそがしくないときに、自分もきっと友だちになれるかもしれない、とピーターは思いました。

どれくらい考えこんでいたのか、ふいに大きな手がかたにおかれたのをピーターはかんじました。ふりむくと、パイロットがにこにこしています。

「なんという名前？」

「ピーター・アグークです。」 どもるようにしてようやく答えました。

「ぼくの名はベン。君が友だちに知っているのを聞いたよ。ぼくはしょうじきな子どもがすきなんだ。」

パイロットの大きな手は、まだピーターのかたにおかれたままでした。ピーターはとつぜん今までとちがう幸福な気持ちになりました。したをもつらせながら、ピーターはベンに、青と白のひこうきがすきなことと、いつか自分も森のパイロットになりたいことを話しました。

パイロットはやさしくほほえみました。「よし、それじゃあ。2、3日のうちひまができたなら、ひこうきに乘せて中から見せてあげよう。」

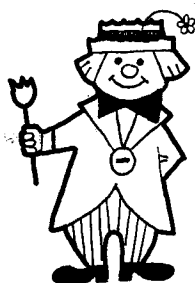
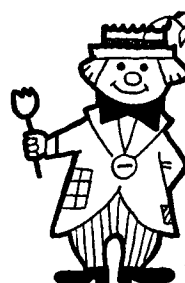
ピーターは、耳をうたがいました。

「ほんとう？」

「これはとりひきさ。ところで今、このゆうびんぶくろ運んでくれないかい。」

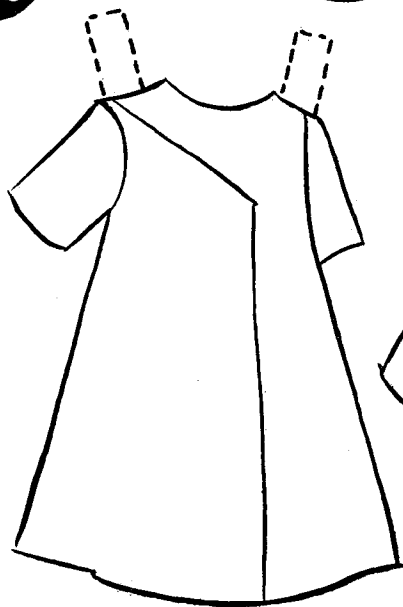
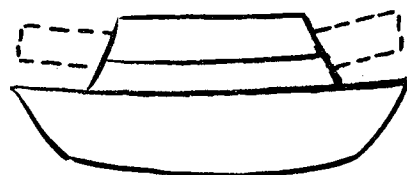
ピーターは重いゆうびんぶくろをかついで、新しい友だちのあとについて行きました。ピーターはとてもしあわせでした。そして顔に9さいの子どもらしい、うれしそうなわらいをうかべました。

ふたごのヒーローは
じやかな?



ビバリー・ジョンストン

かみ
紙にんぎょう



ビバリー・ジョンストン

ホーム・ティーチャーへの質問

V・C・フレイム

教会員を守護するという神権者に伴う原則は、教会が組織される以前に、主によって定められたものであり、この務めは神権者に固有のものである。

ホーム・ティーチャーに召された者は、教会員を守護することへの理解を深め、能力を伸ばしたいと願うであろう。また私たちはほとんど、正しい態度で正しい事柄を行ないたいと願っている。

私たちは神権指導者から次の責任を与えられている。「各会員の家庭を訪れ、彼らが声を挙げてもしもかにも祈りをなし、またすべて家庭の務めにいそむように勧め」、そして「常に教会員を守護し、彼らと共にありて彼らを強くすべきものとす。また教会員の中に邪曲なきよう、互いの間に頑固なることのなきよう、また虚言、陰

口、悪口などもなき様注意すべきものとす。また教会員のしばしば集会することををはかり、またすべての会員にその義務をつくすようになさしむ。」(教義と聖約20:47, 53—55)

この務めは、その家族の管理権を持つ父親を通して果たすものである。

さらに次のように勧告されている。「神権者によって管理される家庭は教会の基本的な単位である。ホーム・ティーチャーは神権の秩序を重んじて、その家庭の管理権を持つ父親と共に働く必要がある。父親の立場を認めなければならない。主は父親に、家庭以外の教会単位との関連を保ちつつ家庭を正しく治め、また家族を永遠の生命に導くよう、責任を課しておられる。ホーム・ティーチャーは父親と共に働きつつ、父親を通して、その務めと責任を強くしてゆくのである。」(「神権ホーム・ティーチングの手引き」1971年版)

私たちはほとんど、教会員を助ける提案やアイデアを必要としている。そこで次にあげる質問をもう一度検討してみよう。厳しく自問し、その答えを探し求めるならば、教会員を守護する正しい備えができるであろう。

1

担当家族とその父親のために、主の御前にひざまずき、熱心に願い求めてきたであろうか。担当家族ならびにその父親と好ましい関係を築けるように、それぞれの父親と適切な時に主の導きを求めて祈ったであろうか。私と神権指導者は、王国の家庭を堅固にするための主の道具となれるように、主の御前にひざまずいたであろうか。また同僚と共に主の箴言を願い求めたであろうか。

2

神権指導者の指示に注意深く耳を傾けたらどうか。十分に彼の心をくみ取り、担当家族に対する彼の関心を理解しているだろうか。

3

父親と共に、また父親を通して働くことによって、家庭の聖なる本質を重んじているだろうか。父親が不活発であったり、非教会員である場合もそのようにしているだろうか。必要に応じて父親と語り合うことがあるだろうか。彼の話によく耳を傾けているだろうか。また励まし、良い点をほめ、さらに高めるようにしているだろうか。

4

担当家族と親しい信頼関係を築き、それを保つようにいつも気を配っているだろうか。

5

担当家族の父親を見守り、強めることが、ホーム・ティーチャーに与えられた召しであり、また機会であることを認識しているであろうか。主は両親に、毎週の家庭の夕べや、また教える機会のあるたびに家族に福音を教えるよう望んでおられることを心に留めているだろうか。担当家族が困っている時に同僚と共にいつでも援助できるようにしているであろうか。

6

証の強い教会員を強め、助ける方法を考え、計画しているだろうか。また新しい会員や強くない会員に対してはどうであろうか。

7

神権指導者や監督から与えられたメッセージを忠実に伝えまた特別な割当てを果たしているだろうか。

8

教会のいろいろな集会で担当家族にあいさつすることを習慣としているだろうか。彼らが集っていない時に、心配しているだろうか。

9

まだ主の宮居で永遠の家族として結び固められていない家族のために計画を立てているだろうか。

10

家庭の夕べを始め、それを続けるために、父親がどのような援助を必要としているか気づいているだろうか。

11

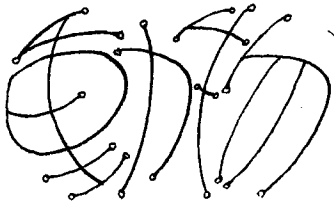
病気、事故、死亡、その他の非常時に、担当家族との連絡がとれいつでも助けられるようになっているであろうか。

12

担当家族の父親の家長としての責任を十分に認め、どのようにすれば父親が神権を存分に行使できるように援助できるか、いつも考えているであろうか。

「見よ、われ汝らにすべての事を悉く命ずるは至当ならず。そは、すべての事已むを得ざれば為さざる者は怠惰なり、賢き僕にあらざればなり。これを以て彼は良き報いを受くることなし。われ誠に汝らに告ぐ、人は努めて善き業に従い、多くの事をその自由意志によりて為し、多くの正しき事を為し遂げよ。そは人自らの中に自由の意志ありて己れの事を自ら為す者なればなり。従って人善を為さば決してその報いを失わざらん。されど命令を受くるまでは何事をもなすことなく、疑いの心を以て命令を受けこれを不精不精に守る者は救われず。主は言う、人間を造りしはわれにあらざるや。われ、わが命に従わざる者を罪なしとせざらんや。主は言う、われ約束してこれを果さざりしことあらんや。われ命を下すに人これに従わずば、われ我約束を取消し祝福を与えず。その時、人々心の中に言わん。こは主の御業にあらず、主の約束果されざればなりと。されどかくの如き人は禍なるかな。その報いは地の下に潜み、天よりの報いあらざればなり。」(教義と聖約58：26—33)

福音と



ジェラルド・E・ジョーンズ

時代によって、人々の動物に対する接し方は様々である。かつて崇拜された動物が現在は虐待されている。ところで私たちの天父はこのことについてどのように考えておられるのであろうか。古代、現代の予言者たちは、これに関して多くのことを語っている。

動物が地上におかれた時、天父は「良し」と言われた。(創世1:25参照) 創世の時から、人間には動物たちを治める主権が与えられた。(創世1:26参照) この神よりの委託がいかに重大であるかは、ジョセフ・スミスの靈感訳聖書の創世記に明確に記されている。

「すべて生きて動くものはあなたがたの食物となる。さきに青草をあなたがたに与えたように、わたしはすべてのものをあなたがたに与えた…また、あなたがたのいのちを保つために肉を食べるときのほかは、血を流してはならない。わたしはいかなる獣の血に対してでも、あなたがたにその血の価を要求する。」(靈感訳創世9:9, 11)

動物を親切に取り扱わねばならないことは、モーセの律法の中にも見られる。主はイスラエルの民に、牛を優しく扱い、刈り入れた穀物の上を歩かせて脱穀をするときに口輪をかけないようにと言われた。(申命25:4) また、力の異なる動物にひとつのくびきをかけることも同様に禁じられた。(申命22:10)

主は、たとえそれが憎む者の家畜で

あっても、荷物を積みすぎて困っているときは助けるようにと命じられた。

(出エジプト23:4, 5) 安息日には家畜にも仕事を休ませなければならなかった。(出エジプト20:10) 箴言には次のようにある。「正しい人はその家畜の命を顧みる、悪しき者は残忍をもって、あわれみとする。」(箴言12:10)

予言者イザヤは、福千年の統治においては、すべて生き物への残忍さが消えさることを述べている。

「おおかみは小羊と共にやどり、ひょうは子やぎと共に伏し、子牛、若じし、肥えたる家畜は共にいて、小さいわらべに導かれ、

雌牛と熊とは食べ物を共にし、牛の子と熊の子と共に伏し、ししは牛のようにわらを食い、

乳のみ子は毒蛇のほらに戯れ、乳離れの子は手をまむしの穴に入れる。

彼らはわが聖なる山のどこにおいても、そこなうことなく、やぶることがない。水が海をおおっているように、主を知る知識が地に満ちるからである。」(イザヤ11:6-9)

主はこの福千年間の動物の状態についてさらにホセアに説いておられる。

「その日には、わたしはまたあなたのために野の獣、空の鳥および地の這うものと契約を結び、また弓と、つるぎと、戦争とを地から断って、あなたを安らかに伏させる。」(ホセア2:18)

このように主が動物たちに関心を持っておられることは、ルカ12:6からも明らかである。主は売られているすずめについて、「その一羽も神のみまえて忘れられてはいない」と述べておられる。

末日に下された啓示で、動物たちに関係する最初の言葉は、「教義と聖約」の中に見られる。1831年3月に予言者

ジョセフ・スミスに与えられた啓示によって、肉食主義は人に下された教えとして要求されていないこと、しかし依然として、人は動物の血を流すことに責任のあることが明らかにされた。

「また、何人たりとも人は肉を食うべきにあらずとしてこれを人に禁ずる者は、神より聖職の按手任命を受けし者にあらず。

見よ、野の獣空の鳥および地より生え出ずるところのものは、人が食い且つ着んがために、またこれを豊に持つ様に神の定むところなればなり。

またいたずらに血を流す者、すなわち肉を無意味に費す者は禍なるかな。」(教義と聖約49:18, 19, 21)

予言者ジョセフ・スミスは聖書を改訳していたとき、黙示録4章6節に述べられている「4つの生物」に関して明確に理解したいと思った。教義と聖約第77章には、これに関する主からの答えが記されている。「神のパラダイスなる天」には、獣と、這うものと、空の鳥と、その他神が創造されたすべての生き物が住むことが啓示された。

(第2節)

復活における動物たちの状態は、第4節に記されたこと以外知られていない。しかし、復活した動物たちは「知識に充ち満ち」ており、「動き働く」能力を持っていると信じられる。

1834年夏、シオンの陣営において、動物の生命について実際に考える出来事が起きた。予言者ジョセフ・スミスはこのことを次のように記している。

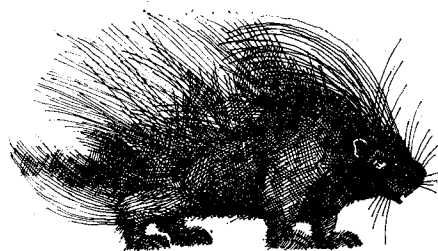
「テントを設営していたとき、私たちは3匹のがらがら蛇を見つけた。兄弟たちがそれを殺そうとしていたので、私は声をかけた。『放っておきなさい。危害を加えてはいけません。もし神のしもべが悪意を持って蛇に戦いをいどむならば、蛇はその毒を捨てよ



うとするでしょうか。私たちは、動物になんの害も加えてはなりません。私たちが邪悪な考えを捨てて、動物たちを殺すのを止めたとき、ライオンと小羊はいっしょに住み、乳飲み子はなんの害も受けることなく蛇と遊べるのです。そこで、兄弟たちは蛇を慎重に棒の先にのせ、小川を越えて向こう岸へ持って行った。そこで私は、旅行中飢えのため必要に迫られない限り、蛇や小鳥やその他の動物を殺さないように兄弟たちにすすめた。」(『教会歴史記録』第2巻(英文))P. 71, 72)

この予言者の教えを兄弟たちが実行したことが1カ月ほど後に起こった2度の出来事からわかる。「ハイラム・ストラットンと彼の友人が、けさ毛布をたたんでいたとき、2匹のがらがら蛇が毛布の下で静かに休んでいるのを見つけた。そこで彼らは注意深くキャンプの外に蛇を運び出した。」

「ブリガム・ヤング隊長のテントで兄弟たちが寝仕度をしていたとき、ひとりの兄弟が、まさに身構えているがらがら蛇を見つけ、殺そうとした。そ



のとき、ヤング隊長は蛇を傷つけることなくテントの外へ運び出すように命じた。するとカーペンター兄弟は両手で蛇をつかみ、安全な所まで運んで、蛇に戻ってこないようにと言いつつ、自由にしてやった。」(『教会歴史記録』第2巻(英文))P. 101, 102)

黙示録に記されたヨハネの見た示現や、死後の動物たちの行き先について

予言者ジョセフはさらに説明を加えている。その説明からわかるように、ヨハネはおそらく天における数多くの生き物を見たに違いない。しかもこれらは「私たちの考えも及ばない珍しい動物」であり、すべての動物が「天で見られたに違いない。」そして、彼はまたこのようにも述べている。「神は御自身が創造されたものを、それが獣であろうと、鳥や魚であろうと、人であろうと、すべてのものを救うことによって栄光を御自身に帰されるということをヨハネは学んだのである。」(『教会歴史記録』第5巻(英文))P. 343)

彼は動物の復活についてさらに教えている。『私は動物の救いを信じることができない』と、言っている人がいる。このようなことはあり得ないとあなたがたに言う人は、だれでも、啓示は真実でないと告げているのである。ヨハネは神をほめたたえるその生き物の言葉を聞き、その言葉を理解した。これらの生き物を創造した神は、語られる言葉をすべて理解することがおできになる。4つの生き物は創造の目的を満たした最も高貴な動物であり、完全無欠なために他の世界から救われていた動物である。彼らはその天において天使のようであった。彼らがどこからやってきたのかは告げられておらず私は知らない。しかし、ヨハネはこれらの生き物を見て、彼らが神にほまれと栄光を帰する声を聞いたのである。」(『教会歴史記録』第5巻(英文))P. 343, 344)

ブリガム・ヤングもまた、動物に関心を持っていた。例えば、ソルトレークの旧タバナクルにおいて次のように説教した。「人々を聖くしよう。そうすれば、その足下の地も聖くなるであろう。人々を聖くし、神の『みたま』に満たされるようにしよう。そうすれば、すべての動物と地の這うものに平

和が訪れるであろう……清さが増せば争いは少なくなり、動物への愛が増せば、それだけ、平和も増すであろう。そうすれば、獣のどう猛な性質は消え去ってしまうであろう。」(『説教集』第1巻(英文))P. 203)

ヤング大管長はまた、末日聖徒は主から託されたこの地上のものを正しく取り扱えるようになるまで、「日の栄の王国を決して受け継ぐことはできない」と警告している。とりわけ家畜に関して、「あなたがたの牛馬の世話をよくするように」と述べている。これを怠る者は「裁き主の前に立って責めを負う」であろう。(『説教集』第11巻(英文))P. 141)

ブリガム・ヤング大管長の副管長であったジョージ・Q・キャンノンは動物を優しく取り扱うことについて、いかなる末日聖徒よりも多くの記事を書いている。ジュブニール・インストラクター誌の編集長として、動物に親切にするよう呼びかける社説を1868年に書き始めた。1897年、彼は日曜学校が後援する「愛護の日」を設けることを発表し、2月中をこの「愛護の日」とし、その後、このプログラムは教会で20年間も続いた。

ロレンゾ・スノー大管長はバプテスマを受けて間もなく、狩りに対する考え方が変わったことを次のように日記に書いている。「獲物を追って静かに歩いていた時、私は自分の心がとがめられるのを強く感じた。狩りの楽しみとは無害で罪のない動物を追いかけまわして、痛めつけ殺すことである。その動物たちは私と同じように生きる権利と楽しむ権利を持っているに違いないのである。私はそれが正当な根拠を持たない単なる道楽にすぎないことを悟った。心にとがめを感じながら、私は鉄砲を肩にかけて、家に帰った。そ

の時以来今日に至るまで、私はそのような残虐な楽しみを再び持ちたいとは思わなかった。」

ジョージ・Q・キャノンの後任として、ジュブニール・インストラクター誌の編集長となったジョセフ・F・ス



ミス大管長は、「愛護の日」の浸透にさらに力を尽くした。1912年2月、彼は「動物を愛する」と題して2ページにわたる社説を載せた。

「すべての動物に対する愛、とりわけ家畜に対する愛情は、もちろん人が発達させなければならない美德であるが、人間に課せられた絶対的な義務でもある……いかなる動物であろうとも虐待することは許されない……次の詩にみられるキリストのような心を人類が受け入れ、それに従って生活する時代は、なんとすばらしいことであろうか。『あなたが与えることのできない生命を取り去ってはならない。すべてのものには、同等の生きる権利がある。』

1918年4月号のジュブニール・インストラクター誌の社説はこのことが非常に重要であることを強調し、それはまた1927年の4月号でも繰り返して強調された。

「野の獣や空の鳥に慈悲深くあるとは、どういうことだろうか。それは私たちの手に託された動物の生命について考えるだけでは足りない。神の創造物へ心から感謝の気持ちを持たなければ

ならない。そこから神の愛を知るのである。神はすべての生き物を神の子供たちが用いるものとして創造された。私たちは、はたして創造主の立場に立って、これらの生き物を優しく取り扱っているだろうか。

神の目的を理解し、創造を続けるに必要な動物界の均衡を保とうとする時感謝の気持は増すに違いない。一方、人に課せられた聖なる義務を顧みない気まぐれな人間は、生命を意に介さなかった。そして地球を訪れる不幸も考えず、冷淡に動物を殺してきた。小鳥が無意味に殺されると、その結果ベストが流行し、世界の人々が病苦に悩んだ。創造主の摂理によって、動物たちはお互いにえじきになるようにつくられている。動物は人類の利益のために安全な均衡を保っているのである。

……不必要な殺りくをくり返すと、明らかに霊的損失をきたす。人は創造主を礼拝できなくなり、神の創造物に必要以上に無とん着になる。一方、すべての生命を愛すればよりすばらしい人生を過ごせるのである。その愛は、神の恵みを必要としている人々の霊性を著しく高める。

気まぐれな殺りくは人類に悪影響を及ぼす。償いの律法というものがあって、生き物を傷つけたり殺したりすると、この報いが罪を犯した者の上にくってくるのである。主から託された家畜の生命を気かけない者は、虐待したがために、しばしばこの物言わぬ動物からお返しを受ける。どのような創造物であろうとも、愛は愛を生む。また自然は人の優しい扱いに対して、惜しみなく応えるものである。

……自然は、私たちが神を知り、理解を深めるのに役立つ。主の創造物すべてに対して、私たちは世話をし、また心からの敬意を払う義務を負っている。人は、直接的であれ間接的であれ

人に仕える動物に対して優しくあるべきである。ののしりの言葉やむごい仕打ちは、そのように振る舞う人を傷つけてしまう。自然の愛と神の愛はよく似ており、両者は分かつことができない。」

デビッド・O・マッケイ大管長は、動物に優しくするようにと、総大会でしばしば語っている。1951年10月、彼はこのように述べている。「真の末日聖徒は、動物、その他すべての創造物に対して親切である。なぜなら、神がすべてを創造されたからである。」

第10代大管長ジョセフ・フィールディング・スミスも、動物の保護に関して述べている。1928年、使徒のときに教会の総大会で次のように述べた。

「そこで私たちは、主が救おうと考えておられるのは、天と地だけではなくまた地球上に住む人間だけでなく神によって創造されたすべてのものであることがわかる。獣も、海に住む魚も、空を飛ぶ鳥も、人間と同じように復活を通して更新される。なぜなら、それらも生ける霊の結合体だからである。」(「大会報告」1928年10月(英文)P. 100)

予言者たちは一致して、動物界に対する人間の義務を思い起こすようにと説いている。主はノアに言われた。

「……わたしはいかなる獣の血に対しても、あなたがたにその血の価を要求する。」(靈感訳 創世9:11) この地球と地上のすべての創造物の世話をすることは、人が神から託された責任である。

ジョーンズ博士は、現在カリフォルニア州パークレイ大学のインスティテュート指導主事である。なお、これまでセミナーで15年間教鞭を執ってきた。同博士は、現在カリフォルニア州ウォルナット・クリーク・ステーク支部プレザントヒル・ワード部の日曜学校教師でもある。

聖典を 聖調べなさい

なんとすばらしい 人生の目的！

シシリー・シム
シンガポール

私はカトリックの学校に学び、カトリックに改宗しました。そうして聖書を読み始めました。好きになった言葉は、「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう」でした。（マタイ 6：33）

私は末日聖徒イエス・キリスト教会の人と知りあうようになってからモルモン経を読みすばらしい指針を与えてくれるひとつの聖句に出会いました。カトリックで習ったことから、私の知っている限りにおいて、人生は重荷になるほどにひたすら厳粛なものでした。私は「人類が現世に在るのは幸福を得んためである」という言葉を読んだ時のことを覚えています。（Ⅱニーファイ 2：25）

この簡単な言葉は日の光のように私の心に射し込みました。何とすばらしい人生の目的でしょう。

その日から、この聖句は私の生活の軸となりました。今、私は毎日を来るがままに生活しようと努めています。天父を信頼して、人生は良いもので、悲しみがやってきても私の力よりも大きくはないことと、天父はもう一度人生の喜びやしあわせを見つけれられるように助けて下さることを知りながら。

毎日の聖典勉強が 私にもたらすもの

ラファエル・アルベルト・ガリイデス
ブエノスアイレス・ステーキ部

以前に、救い主の『人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言葉で生きるものである』と書いてある」という言葉を読んだ時のことを思い出します。（マタイ 4：4）この言葉は私の心と霊に深くしみ通りました。乾いていた私の魂はこの言葉をむさぼるように受け入れたかに見え私は心と精神と霊の力のすべてをもって自分を神の言葉で養いたいと願いました。

私は毎晩教会の標準聖典を読もうと決めました。聖典の内容に喜びを覚えまもなくその喜びは知恵と知識をさらに得たいという強い望みに変わりやがてそれは霊的に完成されたいという熱烈な願いに変わっていきました。聖典の言葉はやがて天からの露のように私の上に注ぎ始めました。私は福音のうるわしい真理を理解し始めたのです。

人には言えません。しかし私はたしかに自分が少しずつ変わってきたとわかるのです。神についてもっと知り、すばらしい平安を受け、聖霊のささやきを聞くことに、大きな幸せを見いだすようになりました。そして学べば学ぶほど祈るようになりました。まもなく私は神との絆を心に感じ始めました。支えを感じ、守護を感じ、慈悲を感じ、神の忍耐を感じました。私はそのような驚嘆すべき祝福の価値を以前は知りませんでした。私の魂は動かされました。それはまるで主が生命の木の甘い実を前もって味わわせたもうかのように。

疑いなく、聖典を読むことによって私の生活は変わりました。祈りと共に最もすばらしい日課が、私の生活に加わったのです。

メシヤを見いだした ユダヤ人弁護士

アイザック・スワーツブルグ
南アフリカ プレトリア

私は弁護士で、南アフリカのトランスバールで生粋のユダヤ人を両親として生まれ、まったくのユダヤ的な環境で育った。1950年にユダヤ人女性と結婚したが、私の生活には何か欠けていた。神が存在すると知っていても、私は神を本当に知ってはいなかった。いつもユダヤ教の教会へでかけて、ユダヤ古来の家庭を守ろうとつとめたがついにその習慣を捨ててしまった。不幸なことに私の結婚は離婚に終わったのである。

そしてある日、不思議にも私は現在の妻であるエドウィナに会った。初めから彼女がモルモンであると知っていたが、そのことはほとんど気にしなかった。時がたつにつれて、私は彼女を自分の命よりも愛するようになっていた。

しかし私に何ができるだろうか。私が異邦人とデートしているということで家族の中に生じた問題を、あなたは理解できるに違いない。それで私は半年間モルモンの宗教を研究し、そのあとエドウィナが半年間ユダヤ教を研究すれば問題は皆解決できると考えた。ふたりでユダヤ教徒になるはずであった。私はエドウィナがこう言った時のほほえみをいつまでも忘れないだろう「研究しましょう。そうすればわかるわ。」

それからの数カ月というもの、私は多くの時間を費やし、ひとりになって読書をし、考え抜いた。

ついにある真夜中の2時頃、私は聖書に向かった。ひとつの考えが心に浮かんだ。私は詩篇23篇をよく知っていたが、22篇は読んだことがなかった。そこで読み始めると、突然心に光が射



してきた。ダビデはその出来事の何年も前に、十字架の処刑のありさまを壮大に描いている。

かき裂き、ほえたけるししのように、わたしにむかって口を開く。わたしは水のように注ぎ出され、わたしの骨はことごとくはずれ、わたしの心臓は、ろうのように、胸のうちに溶けた。わたしの力は陶器の破片のようにかわき、わたしの舌はあごにつく。あなたはわたしを死のちに伏させられる。まことに、犬はわたしをめぐり、悪を行う者の群れがわたしを囲んで、わたしの手と足を刺し貫いた。わたしは自分の骨をことごとく数えることができる。彼らは目をとめて、わたしを見る。彼らは互いにわたしの衣服を分け、わたしの着物をくじ引きにする。しかし、主よ、遠く離れないでください。わが力よ、速く来てわたしをお助けください。(詩篇22:13-19)

これを読んだ時、私は自分が実在するようにたしかに、イエスがメシヤであると知った。それが私に何をもたらしたか、想像できるだろうか。あとの3カ月間に、私は自分の考えがすべて誤っていたことを発見した。

私の全人生が変わり、ひとつの結論

に達した。私は間違っていたと。メシヤがすでに降臨していたと知った私はメシヤの教会を捜し始めた。私はモルモン経を熱心に読んだ。実に、モルモン経は「ユダヤ人と異邦人とにイエスは永遠の神なるキリストにまします…ことを確信させるため」に書かれたのである。

私は読みながら祈った。聖霊が私に福音の真実なことを示したもうた。私はエドウィナのところへ行き、バプテスマを受けたいと告げた。そのあと私たちは結婚した。41歳の現在、私はトランスバールステーク部の高等評議員として働いている。私はこれまでの全生涯に、今持っているような目的と満足感を決して見いだすことができなかった。

聖典の 断食 とは

ロバート・J・マシューズ

断食証会の最中におなかがグーグー鳴り始める時、あなたは断食を喜びとは思わないかもしれない。しかし聖典は断食とは喜びであると記している。

「誠にこれは断食と祈りにして、言を換えて言えば悦びと祈りなり。」（教義と聖約59：14）喜びは幸福な時に覚える感情であり、幸福は人間の存在理由である。（Ⅱネーファイ2：25）そうであるとすれば、断食は私たちを、創造の目的である喜びの状態に帰らせる行為である。

断食日曜日やその他の断食の時に喜ぶことができるかどうかは、いろいろなことにかかっている。そのひとつは断食の目的が何であるかということである。

なぜ断食をするのか

聖典には断食の理由がたくさん載っている。弟子たちが苦しんでいる人から悪霊を追いつけなかった時、イエスは彼らに、「祈りと断食」によらなければ得られない霊の力があることを説明された。（マタイ17：14—21）

モーサヤの息子たちは、レーマン人に伝道していた時、「非常に熱心に祈りと断食をしたから『予言者のみたま』と『啓示のみたま』を受け、その教えを宣べるときには神に授かった

権能と威勢とによって教えた。」(アルマ17:3) 改宗の時に福音の真理について基礎的な証を得ていたアルマはのちに福音の教えのある点について知るために長い間断食をして祈っている。彼は「聖い『みたま』」によって証を受け、「啓示の『みたま』」を与えられた。(アルマ5:44-47)

断食は克己を養い、鍛練となる。

(それは)「断食してわが身を苦しめた」(詩篇35:13),「断食をもってわたしの魂を悩ませ…」(詩篇69:10)と書かれてある通りである。

予言者アムレカイは、民に「断食と祈りとを常に怠らず、終りまで堪え忍べ。そうすれば、あなたたちの救われることは主が生きていますように確である」と言って、断食を救いに結びつけている。(オムナイ26)

しかし一番大切な断食の理由は、主がそれを末日の啓示で命じられたことである。「われまた汝らに一つの誠命を与う。すなわち、汝ら今より後祈りと断食とを続けて行おうべし。」(教義と聖約88:76)

いつ断食をするのか

断食はしばしば礼拝と関連させて考えられている。(モロナイ6:5, III ニーファイ27:1, IV ニーファイ12)

また現在多くの人が、断食を守っているのはそのような精神からである。人々はワード部なり支部全体で定められた断食日に断食をし、その食事代の分を貧しい人のために献金する。毎週安息日には、食事をその日の精神から逸脱しないように簡単に整え、肉体労働や日常のごたごたした仕事は避けるべきである。(教義と聖約59:13)

教会員が不信者から辛い仕打ちを受ける時、断食をして人々の心が変わるように祈ることができる。その最も顕著な例は、モーサヤ書の中で、父のアルマと祭司たちがアルマを肉体的にも霊的にもいやしてほしいと主に「二日二晩断食して祈った」と記されている例である。(モーサヤ27:22, 23)

のちにアルマが教会の大祭司になった時、主は教会員に「まだ神を知らない者の……ためにたびたび集合し、一しょに断食して一心に祈るように」命じられた。(アルマ6:6)

美しい王妃エステルとその民は、ペルシャ王の非道な布告を撤回させようと三日三晩断食し、布告は解かれた。(エステル4:16)

コルネリオは真理を知りたいと思って断食をし、ペテロがつかわれて彼に福音を説いた。(使徒10:30-33)

アンテオケの指導者たちは断食して宣教師となるべき人を召した。(使徒13:1-3)

人が死んだ時や戦争のさなかにも断食のことが述べられている。信仰厚いニーファイ人は、敵に勝利を収めた時「大いに断食と祈りとをし、まことに大きな喜びを以て神を礼拝した。」(アルマ45:1) しかし勝利は大勢の命の代償である。断食は悲しみ嘆く人々の傷をやわらげ、平安をもたらしたようである。「ニーファイ人が味方の死者を葬って、その断食と喪と祈りとと期節が終わってからは……全国が平和になった。」(アルマ30:2) また別の時にニーファイ人は「暗殺された大判事の葬式を行おうとするとき……哀悼と断食のために集っている。」(ヒラマン9:10)

断食は霊の力や証、克己、それに人の霊の面から見た健康を培う基礎となるものなので、罪を犯した人が赦しを得るために非常に大事なことである。息子のアルマは天使が現われたあと、口をあけられなかったこともあってやむを得ず3日間断食をした。彼の魂が「一切の罪のために非常に良心のとがめを受け、永遠の責苦を感じた」のはこの時である。苦しんでいた間に彼はイエス・キリストとその贖いについて父が語った言葉を思い起こした。その思いはふくらんでついに罪の苦しみにとって代わった。「ああ、この時私の感じた喜びと、私が見た驚くべき光とはいかにも大きかった。まことに、私

はこの時前に感じた苦痛にひとしいほどの喜びに満ちたのである。」(アルマ 36:10-20) パウロもあの奇跡的な改宗の時に、3日間食をとらなかった。(使徒9:9)

しかし、断食をすれば主のみこころに反することさえ為し遂げられると考えるのは間違いである。ダビデは病気の子供が死なないように断食をして祈ったが、7日ののちに子供は死んでしまった。(サムエル下12:15-23)

どのように断食をするのか

イエスは「断食をしていることを人に見せようとして」「陰気な顔つき」をせず、「断食をする時には、自分の頭に油を塗り、顔を洗いなさい」と言ひひそかに断食をするよう説かれた。

(マタイ6:16-18、Ⅲニーマイ13:16-18参照)

断食は食物と飲み物ばかりでなく、その他の肉体的な喜びを断つことも含まれているとパウロは言っている。(Ⅰコリント7:5)

断食の長さについては聖典に規定されていない。モーセは「四十日四十夜…パンも食わず、水も飲まなかった」と言われている。(出エジプト34:28) イエスも「四十日四十夜、断食をし、そのうち空腹になられた。」(マタイ4

:2) その他断食の時間が記されている所では、ほとんど2、3日である。一般的に言って、私たちは大部分の者にとっては長い期間にわたる断食よりも定期的に2、3食を抜く断食の方がよいようである。

ま と め

予言者イザヤは断食についての的確に要約している。それは、利己心やひとりよがりな理由でしているため受け入れられない断食があるという指摘で始まっている。そのような人は、主が自分を無視して断食に答えてくれないと不平を言った。そこで予言者は主に代わってその理由を説明した。

「見よ、あなたがたの断食するのはただ争いと、いさかいのため、また悪のこぶしをもって人を打つためだ。きよう、あなたがたのなす断食は、その声を上に聞えさせるものではない。このようなものは、わたしの選ぶ断食であろうか。人がおのれを苦しめる日であろうか。そのこうべを葦のように伏せ、荒布と灰とをその下に敷くことであろうか。あなたは、これを断食となえ、主に受けいられる日と、となえるであろうか。」(イザヤ58:4,5)

そして断食の正しい理由は何かということ、またそこから豊かな恵みがも

たらされることについて述べた。

「わたしが選ぶところの断食は、悪のなわをほどこき、くびきのひもを解きしえたげられる者を放ち去らせすべてのくびきを折るなどの事ではないか。また飢えた者に、あなたのパンを分け与え、さすらえる貧しい者を、あなたの家に入れ、裸の者を見て、これに着せ、自分の骨肉に身を隠さないなどの事ではないか。そうすれば、あなたの光が暁のようにあらわれ出て、あなたは、すみやかにいやされ、あなたの義はあなたの前に行き、主の栄光はあなたのしんがりとなる。また、あなたが呼ぶとき、主は答えられ、あなたが叫ぶとき、『わたしはここにおる』と言われる。もし、あなたの中からくびきを除き、指をさすこと、悪い事を語ることを除き、飢えた者にあなたのパンを施し、苦しむ者の願いを満ち足らせるならば、あなたの光は暗きに輝き、あなたのやみは真昼のようになる。主は常にあなたを導き、良き物をもってあなたの願いを満ち足らせ、あなたの骨を強くされる。あなたは潤った園のように、水の絶えない、泉のようになる。」(イザヤ58:6-11)

正しい理由で正しい時に、正しい方法で断食する者に与えられるこれら数々の祝福は、実に喜びの源である。

モルモン ユーモア

安定したパーソナリティーを持つことは容易である——与えられた数々の祝福をすぐ忘れるように、抱えている諸問題も、すぐさま忘れることである。

合衆国農務省の調査をしていたひとりの学生がしたり顔に農場主の収穫袋に目をやり、話しかけてきた。「こう言っては何ですが、この農場から5トンのジャガイモが取れたら、驚きですね。」
「ああ、私もだ。」農場主は学生に答えた。「ここはトマト畑なんだよ。」

チャールス・E・エド
ニュージャージー州アルームフィールド

子供日曜学校3歳児のレッスンをちょうど終えたところでした。そのレッスンは「おじいさん、おばあさんへの手助け」というものでした。

子供たちは、テーブルのまわりに集まり、自分たちのおじいさんやおばあさんへのプレゼントを作り始めました。そこで私はひとりの男の子に、おじいさんにそのプレゼントをすぐ贈るのか尋ねてみました。するとその子供は悲しげな顔をし「おじいさんは今、天国にいるよ」と答えたのです。私はかわいそうになり、「でもおばあさんはここに、——この地にいるんでしょう。」と尋ねました。

「いいえ！」子供は答えました。
「ユタに住んでいます。」

アンウッド・ランド
アイダホ州アイダホフォールズ



前と後ろに一頭ずつ入れるように言ったはずではないか！

絵：デッド・キルバーン
案：スネラ・コンデイト、ペンシルベニア州

あるステーキ部長が、ステーキ部内のある男性に、たいそう重要なことで問い合わせの電話をした。しかし、電話口に出た声はあきらかに子供の声であった。そこで部長は、ほかにだれか家にいないかどうかを尋ねた。子供は答えた。「兄弟がいます。」

「それじゃ、彼と話させてくれないかな、坊や。」

だいたい待たされた後、その子供がもう一度電話に出て、こう言った。

「電話口まで来れないんです。」

さすがのステーキ部長もじれったくなつて尋ねた。「どうして来れないんだね。」

電話口の小さな声は、一生懸命に答えた。「だって僕、ベビーベッドから抱き上げられないんだもん。」

ダグラス・C・ベニオン
ユタ州ソルトレーク市

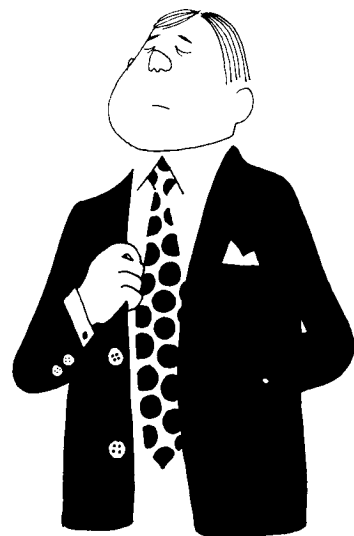
モルモン教徒の中の生活

大変すばらしい聖餐会でした。ステーキ部長が集会場一ぱいの人々に、ワード部境界の再編制をし、現在のふたつのワード部から3つのワード部にすることを発表しました。再三再四、ステーキ部長は地区の境界の混乱を避けるため、境界線の確認を繰り返しました。その後彼は、新しい3人の監督の名を発表したのです。それは長い、しかも感動的な集会でした。事態の重大性は私たちの6歳になったばかりの娘にさえ分かったとみえます。私たちが集会を去る時に娘は尋ねました。「私たち分けられてしまうんでしょう。ねえ、お父さん。それでも私たちはまだモルモンなの？」

J・ガリー・シーツ、ユタ州ホロウディ

ワード部のスカウト指導者が町でキャンプの備品を買っている時、ひとつの磁石に気づいた。その磁石の裏側にはカガミが取り付けてあった。不思議に思った指導員はこう言った。「おかしいなあ。何で裏にカガミがついているんですか。」店主はおもむろに説明した。「だんな、そいつは愚問ですね！こいつあまったく便利なんで、道に迷った時を考えて下さいよ。まず磁石の方向を見る。それから裏返しにするんでさあ。そうすると、まあなんですね。道に迷った買抜けなヤツがだれかすぐ分かるっていう寸法で。」

テル・ブラッグマン
アイダホ州ブラックフット



ヒーバー・J・グラント大管長は、あるひとりの兄弟が話をするように呼び出された時のことについて語った。彼は背広のえりをつまみながら、おうような態度で説教壇へと歩いていった。しかし、会衆と目を合わせたたん、何も言えなくなってしまい、自分の席に戻らざるを得なくなつてしまった。そこでグラント大管長は言われた。「もし兄弟が、自分の席に戻る時のような態度で壇上へ向かったなら、彼が席に戻る時には、説教壇へと向かった時のように堂々と帰ることができたであらう。」

ジョセフ・M・フランク
アリゾナ州サンカロース

私も家族は、聖餐会の席上そろってすわるようにしております。でも、時にはむずかしいこともございますのよ。と申しますのは私どもの父親が時折居眠りをすることがありますものですから。ある聖餐会の時でしたわ。父は居眠りをしないよう、それはもう頑張っておりましたのですが、とうとうコックリコックリやり始め、その内に頭を垂れて完全に眠ってしまいました。私の妹が——そう、ちようどあなたと同じように感受性の強い年頃の子ですわ——父親を突っついてこう申しました。「ねえお父さん、起きてちようだい。お祈りじゃないのよ！」

ロナレヤ・ジョーンズ

ロードショウ

鈴木晃二
大阪ワード部

1973年3月30日は、私にとって忘れることのできない日です。

現在、私は大阪ステーキ部MIA活動委員のドラマの責任に召されています。支部でMIA第二副会長としての責任に召されたことはありましたが、ステーキ部でのMIAの責任は初めてでした。そのため、何をしたら良いのか不安でいっぱいでした。まず、MIAのロードショウを担当しなければならないと聞かれた時、どうしたらよいのかと心配でした。しかし、私は心の中で頑張らなければと強く思い、ロードショウのプログラムに取り組みました。でもなかなか思うようにはかどらないので、あせりばかりが先に立ちました。そうしているうちにいつの間にか数カ月が過ぎてゆきました。今度のロードショウはワード部、支部ごとに行なうのではなくブロック制でしたので、いろいろな問題が起こり、3月30日に開催される予定なのに昨年の12月末になっても脚本ができないブロックもありました。こうして各ブロック



がようやく本格的に練習を始め出したのが今年の1月に入ってからでした。各ブロックはそれぞれのワード部、支部で練習に一生懸命励みました。しかしながらなかなか人数も集まりにくく時間の分担なども難しくブロック内での調整がうまく行きませんでした。舞台装置を作ることも各ブロックとも本当に苦労しました。MIAの時間だけではこれらのことをするのに足りませんでしたので、平日も集まって準備しました。若い兄弟姉妹たちの中には夜も遅くまでかかるので家庭からの苦情が出たりもしました。そしてあれこ

れしている間に3月15日のリハーサルの日が来ました。

リハーサルは本番と同じ豊中市市民会館の舞台で行ないました。今度のロードショウは今までのロードショウと違い舞台も大変広い所なので、練習もさらに増やして場所負けしないように頑張りましたが、リハーサルの日は、なかなか思う通りにできませんでした。各ブロックの兄弟姉妹たちは、当日のロードショウの時にはもっともっと素晴らしいものにしようとお互いに励まし合い、3月30日を目の前にして練習に励みました。

いよいよ、その日がやってきました。私はこの日を待っていました。当日は会員以外の人もたくさん会場に集まりました。4つのブロックのロードショウ「風船」はリハーサルとは見違える程に素晴らしいものになり、幕合いの寸劇も本当に楽しいものでした。このロードショウは兄弟姉妹ひとりびとりに、多きな喜びと強い証を抱かせました。ロードショウが終わり、会館出口



でひとりずつ握手で見送った後、本当に嬉しさがこみ上げて来て目頭が熱くなるのを覚えました。その時に教会員ではない人がこう言っておられました。「モルモン教会とは本当に素晴らしい教会ですね。こんな機会があったら是非、また呼んで下さいね。きっと来ますから」と。

私は神様が、私たちが日々強くなるように多くのすばらしいプログラムを

与えて下さることを強く心に感じました。そしてみんなで力を合わせるならば決して何事もできないことはないと思いました。このロードショウのプログラムに多くの兄弟姉妹たちが一致協力して下さいましたことを心から感謝しています。私は今、ロードショウを終えて次の聖句を心からかみしめます。「みな語ることを一つにし、お互いの間に分争がないようにし、同じ心

同じ思いになって、強く結び合っていてほしい。」(I コリント 1:10)

私は末日聖徒イエス・キリスト教会が神様の唯一の教会であることを心から証します。また、兄弟姉妹とご家族の上に神様の大的なる祝福と恵みがありますように、心からお祈りします。イエス・キリストのみ名により、アーメン。

東京ステーキ部

大運動会

謝花良康

東京ステーキ部

アロン神権MIA第二副会長

「よく聞いておくがよい。もしあなたがたが信じて疑わないならば、このいちじくにあったようなことが、できるばかりでなく、この山にむかって、動き出して海の中にはいれと言っても、そのとおりになるであろう。また、祈るとき、信じて求めるものは、みな与えられるであろう。」(マタイ 21:21, 22) 新聞の天気予報によると5月5日の天気は曇のち雨、しかしそこに奇跡が起こった。それは多くの信仰深い兄弟姉妹たちの熱心な祈りの結果である。この運動会のために多くの兄弟姉妹たちが一生懸命準備をしていたことを神様は御存知で、このようにすばらしい天気を恵んで下さったのである。参加者も予定通りの600名近く。本当に競技場の回りを囲む緑に負けぬ程に若さを発散させた人々の集りはすがすがしい感じがする。神権者たちによる騎馬戦、整然と行進して行くこの青年たちは、私に2,000年余りも前にヒラマンに率いられた2,000人の若い強者たちを思わせた。「かれらはみな青年

であって筋骨たくましく活潑な勇士であつたばかりでなく、いついかなる時でも委ねられたことを忠実に行った。かれらはみな神の命令に服従することと、神の前に正しく真すぐに暮すことを教えられ、真実な心を持つ真面目な青年であった。」真に彼らの顔は真理を知った喜びで輝いていた。技を競うと言うよりぶつかり合うことにより兄弟愛を確め合っているような顔、顔。私は本当にこの真理を求めてやまない兄弟たちを誇りに思った。

競技場の選択の際も主の力があらわ

れた。アロン神権MIA会長の重松征史兄弟は「これは神様の祝福だ、奇跡だ」と喜んでおられた。休日の競技場使用を希望する団体は本当に多くある。東京都で公平にするために各団体の代表者たちを集めてクジで当選者を決める。私たちも2、3の場所に代表を送った。競争率の高い中で、芝公園とこの砧公園の使用権を獲得したのである。これが祝福でなくて何であろう。神様は本当に不思議なことをなされる。



おしらせ

地区総大会が、本年8月24日から26日に西ドイツのミュンヘンで開催されることになっています。リー大管長をはじめ教会幹部がこれに出席し、また地区内の神権指導者も出席する予定です。

この大会は多くの異なった国語を話す人々が集まるという珍しい大会です。英国マンチェスター大会（1971）やメキシコシチー大会（1972）ではそれぞれ英語、スペイン語で行なわれてきました。しかしミュンヘン大会では、ドイツ語を話す聖徒に加えて、フランス語、イタリア語、スペイン語、オランダ語を話す聖徒が参加します。

そこで聖徒の道のスタッフもミュンヘンを訪れ、写真を取りインタビューをする予定ですので、大会の模様を完全に報告できると思います。

ミュンヘン大会特集号の他に、聖典特集号、宣教師活動特集号、また「世界に広がる教会」に関する特集号を計画しています。お見逃しなく。



聖典を調べよう

日曜日

1. ヤコブ1: 5, 6
2. I ニーファイ15: 7-11
3. モロナイ10: 4, 5
4. III ニーファイ20: 1
5. ヒラマン10: 4, 5
6. ヒラマン3: 35
7. アルマ13: 27-29
8. III ニーファイ18: 14, 15

私たちは信仰が深くて大そう熱心になると兄弟たちは「見よ、われらの父は「かんらん」の木の……………

またこの記録を受ける時

イエスは群衆と弟子たちに

「ニーファイよ、汝はその為したることのために……………」

しかし謙遜な人たちはたびたび断食して祈り、……

さて、私の兄弟たちよ、私が心の底からこいねがい、……

汝らは、わが命じたることを

月曜日

アルマ34: 17, 18

それであるから私の兄弟らよ、

火曜日

ヤコブ5: 14, 15

それから、樹木園の主は

水曜日

モーサヤ24: 8-25

さてアミュロンは次第にアルマとその兄弟らに向けて権力を振り……

木曜日

アルマ37: 36, 37

汝の要する一切の助けを神に祈り求めよ。……………」

金曜日

教義と聖約88: 63-65

すなわちわれに近づけ、さらばわれ汝らに近づかん……………」

土曜日

教義と聖約9: 7-9

見よ、汝いまだ悟らず。

家庭の夕べ

鈴木 政子

岡町ワード部

子供が、「お母さんは少し恍惚の人だから悲しいことがあると泣いて今に涙で体の水分がなくなって死んでしまうよ」と申します。私は悲しいことはもちろんですが、余りにも恵まれて嬉しいことがあります、思い出してもよく涙ぐむことがあります。きょう、キンボール長老御夫妻が清水伝道部長御夫妻と共にお店においで下さいました。本当に嬉しい光栄なことでした。私が安息日を聖く守ることによる神様のごほうびと大変嬉しく存じます。このことはどんなに私に力と励ましを与えて下さることでしょう。開店した当時、日曜日に休みますので、お客様は一番もうかる日曜日に休みをとるあほな店と言って、そう長く続かないようなことをほのめかしていました。もう4年目を迎えようとしています。今ではお客様も日曜日は教会へ行っていることを知っています。初めは少しでもお店の宣伝にとシャッターを開けてでかけましたが、教会から帰るとお客様が店の前で待っていることがたびたびで、少しの時間でも商売をしてしまう結果になりました。今では全くシャッターを閉め、お店の小鳥たちも、この日はお日様の光を知りません。お隣りの中川兄弟姉妹のお店も安息日を聖く守っておられます。きょう私に与えられましたテーマは家庭の夕べを通して家族が強められることについてでございます。私の家では毎日、モルモン経典を1章ずつ読むようにしています。私がすっかり忘れていますが子供たちから言われます。6歳の子

供から読み始めます。時々、質問を受けます。子供たちの心にきっと何か残っていくことでしょうか。お祈りで始め読み終えると家族の祈りをして終わります。

家庭の夕べは大変楽しいものがございます。私は日曜日から、よくクラスのレッスンに耳を傾け、本を読んで準備します。月曜日、時間のある時は、子供の歌から選んだ歌を歌って始まります。お祈りが終わり、初めにモルモン経典を読みます。その後、前の週に決めておいた教師を中心に福音の勉強が始まります。年長の子供たちが先生になる時、紙芝居のように絵を書いて、小さい子にも分るように話してくれます。主人も私も感心しながら聞いています。みんな楽しそうです。この夕べでは、普段聞かれないような先祖の話を聞いたり、とても良いお話を主人がしてくれます。その時、子供たちの目は輝いています。初めの頃は、最後のリフレッシュメントが子供たちにとって一番楽しいもののようでしたが、今では確かに家庭の夕べにもたらされるころの霊的なものを子供が要求していることがよくわかります。準備がよくできて、みんなが満足できる時は、満月のような家庭の夕べです。しかし三日月のようにさびしい家庭の夕べもあります。私たちは、この家庭の夕べをみんなで育てて良いものにしていきたいと思っています。別の日に家族会議をしていますので、この家庭の夕べは私共にとってはなくてはならない独特の楽しい日であり、これからも一層そのようにしていきたいと思っています。



子供が大学から借りて来た本の中にある学校の校長先生が「踏むな、踏むなよる草の草に花ごころ」という歌を先生方に示して、きれいな花でも冬に咲くものあり、春に咲くものもあり、大きな花あり、小さな花あり、赤い花あり、白い花あり、その時期や大きさや、色や香り、それぞれ違って美しく咲きます。子供ひとりひとりもこの花ごころを持って生まれて来ております。



す。決して踏みつけるようなことをしないよう、大事に育て、教育するようにと悟しておられました。私もそれぞれ違ったものをもって神様のもとから生まれて来たひとりひとりの子供を大事に尊敬して、育てていきたいと思えます。扶助協会に出席しますと、子供の育て方、母親として必要なすべてのことについて学びます。

私は、家庭の夕べを通して、確かに家族が霊的に向上し、親子の結びつきが強まることを証します。そして、現在の予言者を通じて与えられた全組織のプログラムが私たちに非常に大事なものであり、これに参加、出席することにより、進歩と幸福がもたらされることを証いたします。私の持っている喜びがもっと増大するよう、謙遜に神様の戒めに従いたいと思えます。神様が生きてましますこと、イエス・キリスト様が仲保者として救い主、贖い主であられますこと、この教会が唯一まことの教会でありますことを心より証申し上げます。すべてをイエス・キリスト様の御名により申し上げます。アーメン。

